

## 【資料】

岡山県における感染症の患者発生状況について (2024 年)  
Epidemiological Surveillance of Infectious Diseases in Okayama Prefecture (2024)石故明衣子, 木田浩司, 妹尾安裕  
ISHIKO Meiko, KIDA Kouji, SENOO Yasuhiro

[キーワード: 感染症, サーベイランス, 全数把握感染症, 定点把握感染症]

[Key words: Infectious disease, Epidemiological surveillance, Notifiable disease surveillance, Sentinel surveillance]

## 1 感染症発生動向調査

## 1.1 調査方法

感染症発生動向調査事業実施要綱(平成11年3月19日付け健医発第458号。以下「要綱」という。)に基づき、岡山県内の各関係機関から報告された患者情報は感染症サーベイランスシステム(NESID: National Epidemiological Surveillance of Infectious Disease)により、国立感染症研究所感染症疫学センターへ報告され、都道府県の情報が集計されている。2024年に集計された全国の情報と比較しつつ、県内の発生状況を解析した。

## 1.2 届出対象感染症

対象となる感染症は、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」(平成10年法律第104号。以下「感染症法」という。)により定められており、一類～五類感染症、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症に分類されている。また、一類～四類感染症、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症は全数把握対象に、五類感染症は全数把握対象及び定点把握対象にそれぞれ区分されている(表1)。

## 1.2.1 全数把握感染症

全数把握感染症とは、発生数が希少又は周囲への感染拡大防止を図るために全ての患者の把握が必要な感染症で、医師には、該当する感染症の診断時に最寄りの保健所への届出が義務づけられている。

## 1.2.2 定点把握感染症

定点把握感染症とは、発生動向の把握が必要な感染症のうち、患者数が多数で、その全てを把握する必要がないもので、指定された医療機関(以下「定点医療機関」という。)は、発生状況を週単位又は月単位で保健所に届け出ることになっている。定点医療機関は、要綱の基準に基づき選定されるが、岡山県の場合、小児科定点54、内科定点30、眼科定点12、性感染症定点17、基幹定点5を指定し、このうち小児科定点と内科定点をあわせてインフルエンザ/COVID-19定点84としている。

定点把握感染症については、全国や過去のデータの比較においては、全ての定点医療機関から報告される患者数を定点医療機関数で割った値(以下「定点あたり報告数」という。)又は年間の患者報告数を定点医療機関数で割った値(以下「定点あたり累積報告数」という。)を用いる。

## 1.3 調査期間

全数把握感染症(表1-1)及び月報告の定点把握感染症(表1-2-②)の調査期間は、2024年1月1日～12月31日、週報告の定点把握感染症(表1-2-①)については、2024年第1週～第52週(2024年1月1日～2024年12月28日)とした。なお、インフルエンザ及び感染性胃腸炎は、流行時期にあわせて、グラフ及び本文の内容を第36週～翌年第35週(2023年9月4日～2024年9月1日)とした。いずれの感染症も診断日を基準としており、「感染原因・経路」については、「推定」も含むものとした。

## 2 結果

## 2.1 全数把握感染症の発生状況(表2, 3)

## 2.1.1 一類感染症

一類感染症の届出はなかった。

## 2.1.2 二類感染症

二類感染症は、結核の届出があった。

## i) 結核

結核は246例の届出があった。2020年～2022年は250例前後で推移し、2023年は211例と減少していたが、2024年は増加に転じ2022年と同様の水準に戻った(図1)。病型は、患者が148例、無症状病原体保有者が95例、疑似症患者が2例、感染症死亡者の死体が1例であり、届出のうち21例が医療・介護関係者(看護師、介護職など)であった。性別は男性が134例、女性が112例で、年齢階級別(図2)では60歳以上の高齢者が56.1%と大半を占めたが、前年(67.8%)から10%以上割合が減少した。一方で、10～40歳代の占める割合(34.6%)

は前年(20.9%)から増加しており、特に20歳代での届出が多く見られた(42例, 17.1%)。なお、2024年の日本の結核罹患率(人口10万対)は前年度と変わらず8.1であり、低まん延の状態を継続している。また、近年全国的に増加傾向にあった20歳代の若年層での新登録患者数は前年から更に増加しており、(2023年は10,096例中1,042例(10.3%), 2024年は10,051例中1,290例(12.8%))、特に、同年代における外国生まれの患者の発生(2023年、2024年の新登録患者における割合はそれぞれ84.8%, 90.0%)が注目される<sup>1)</sup>。

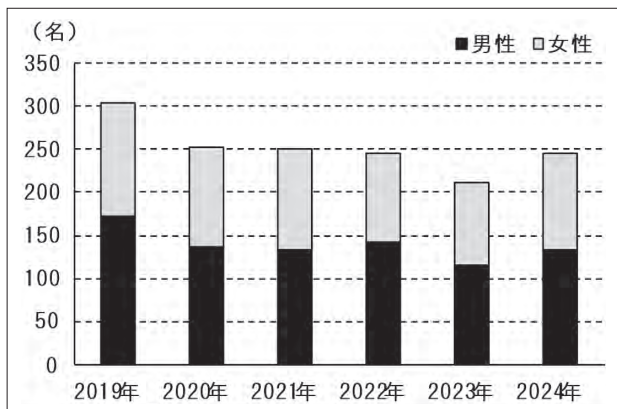


図1 結核 年次別発生状況

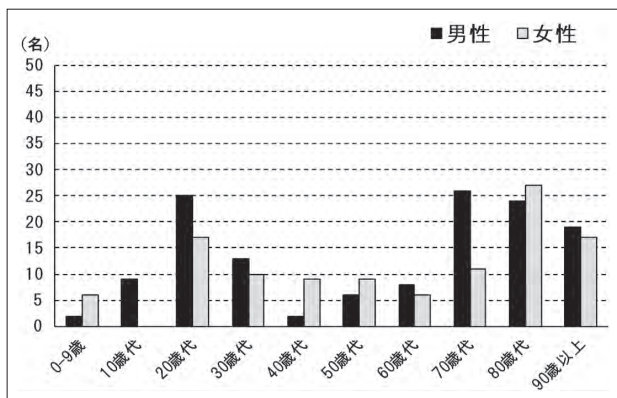


図2 結核 年齢階級別発生状況

### 2.1.3 三類感染症

三類感染症は、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症及び腸チフスの届出があった。

#### i) 細菌性赤痢

細菌性赤痢は1例の届出があり、40歳代の女性であった。推定感染地域は県内で、感染原因・経路は不明であった。

#### ii) 腸管出血性大腸菌感染症

腸管出血性大腸菌感染症は63例の届出があり、過去5年間で最も多かった前年(104例)から減少した(図3)。病型は、患者が43例、無症状病原体保有者が20例であった。性別は男性が32例、女性が31例で、年齢階級別で

は、20歳代が13例、10歳未満及び50歳代が各10例の順に多かった。月別発生状況は8月(15例)、9月(12例)、7月(10例)の順に多くなっており、夏～秋に届出が多かった(図4)。血清群別の内訳は、図5のとおりO157、O103、O26の順に多く、「その他」の内訳はO145が3例、O6、O76、O105、O111、O115、O118、O126、O130、O156及びO181が各1例であった。

感染経路は経口感染が26例、接触感染が5例、不明が32例であり、経口感染の17例が「焼肉」を喫食していた。

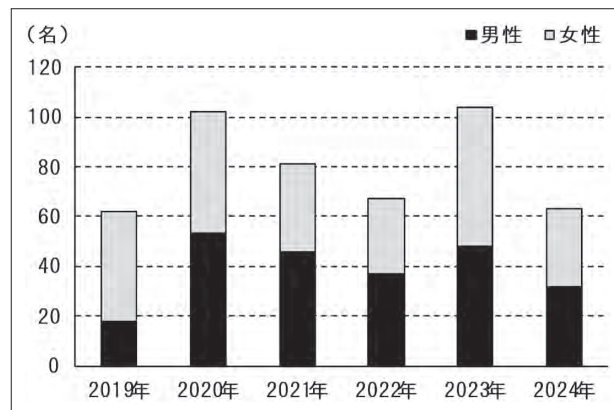


図3 腸管出血性大腸菌感染症 年次別発生状況

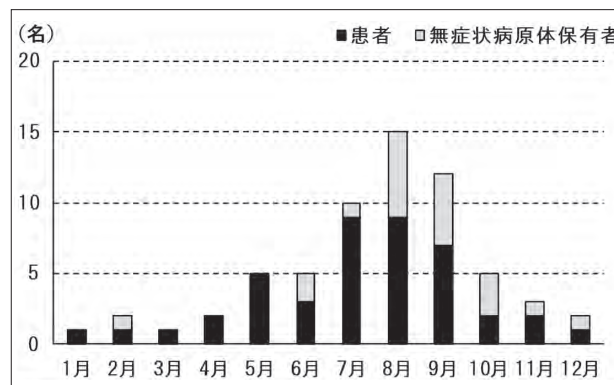


図4 腸管出血性大腸菌感染症 月別発生状況

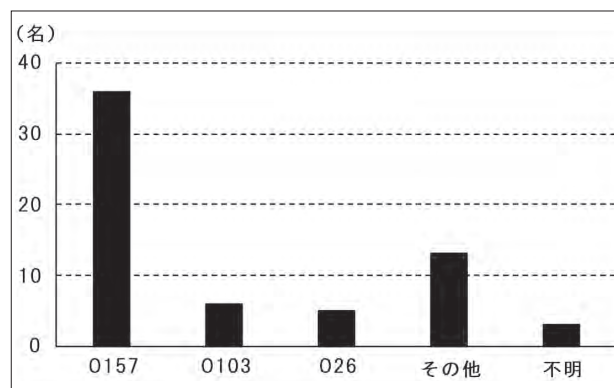


図5 腸管出血性大腸菌感染症 O血清群発生状況

#### iii) 腸チフス

腸チフスは2例の届出があり、20歳代及び30歳代の女性が各1例であった。推定感染地域は、全て国外(ミヤ

ンマー及びインド)で、感染経路は経口感染(水)が1例、不明が1例であった。

#### 2.1.4 四類感染症

四類感染症は、E型肝炎、A型肝炎、重症熱性血小板減少症候群、日本紅斑熱及びレジオネラ症の届出があった。

##### i) E型肝炎

E型肝炎は1例の届出があり、60歳代の女性であった。推定感染地域は県内で、感染経路は不明であった。

##### ii) A型肝炎

A型肝炎は4例の届出があり、性別は男性が2例、女性が2例で、年齢階級別では小学生、20歳代、30歳代及び90歳代が各1例であった。推定感染地域は国外が3例(パキスタン2例、インド1例)、不明が1例で、感染経路は経口感染が3例、不明が1例であった。

##### iii) 重症熱性血小板減少症候群

重症熱性血小板減少症候群は1例の届出があり、過去5年間で最も少なかった(図6)。2013年からの累計報告数は32例となった。10月に届出があり、70歳代の男性であった。推定感染地域は県内で、感染原因・経路として、動物・蚊・昆虫等からの感染が疑われた。

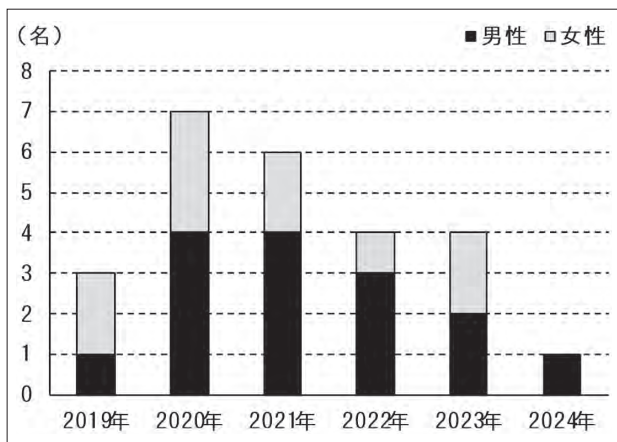


図6 重症熱性血小板減少症候群 年次別発生状況

##### iv) 日本紅斑熱

日本紅斑熱は21例の届出があり、県内初の届出があった2009年以降で最多の届出数となった前年(13例)から更に増加した(図7)。2009年からの累計報告数は97例となった。10月に6例、5月及び9月に各4例の順で多く届出があり(図8)、性別は男性が7例、女性が14例であった。年齢階級別では70歳代が13例、80歳代が4例、60歳代が2例、10歳代及び50歳代が各1例であった。推定感染地域は、全て県内で、感染原因・経路として20例で動物・蚊・昆虫等からの感染が疑われた(うち刺し口ありが12例)。また、農作業等の野外活動がある

ものが9例、動物との接触歴があるものが2例であった(重複あり)。

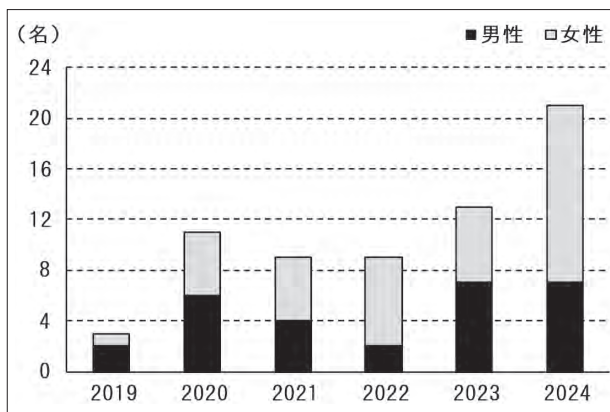


図7 日本紅斑熱 年次別発生状況

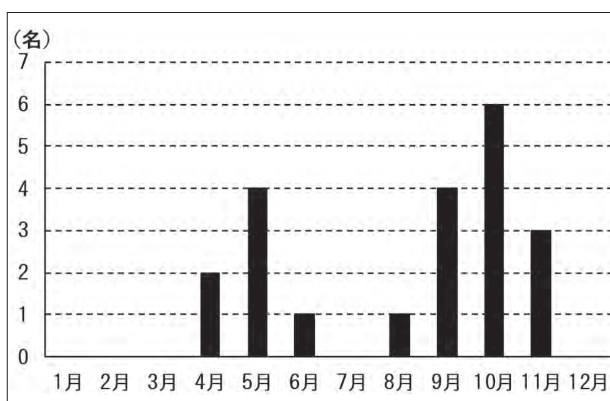


図8 日本紅斑熱 月別発生状況

##### v) レジオネラ症

レジオネラ症は43例の届出があった(図9)。病型は肺炎型が40例、ポンティアック熱型が3例であった。性別は男性が37例、女性が6例で、年齢階級別では70歳代が14例、60歳代及び80歳代が各10例の順に多かった(図10)。感染原因・経路は、水系感染が10例、じんあい感染が5例、その他が4例、不明が25例であった(重複あり)。水系感染のうち5例は、入浴施設を利用していた。また、じんあい感染のうち2例は野外活動歴があった。

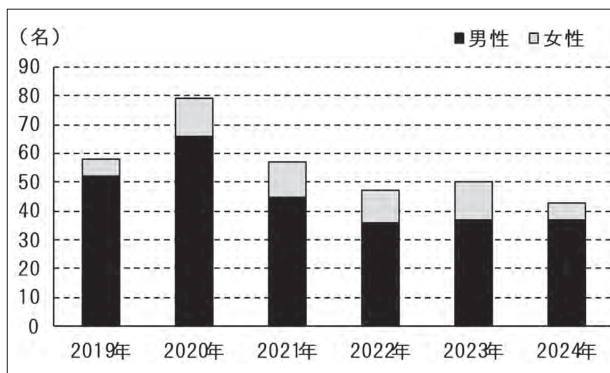


図9 レジオネラ症 年次別発生状況

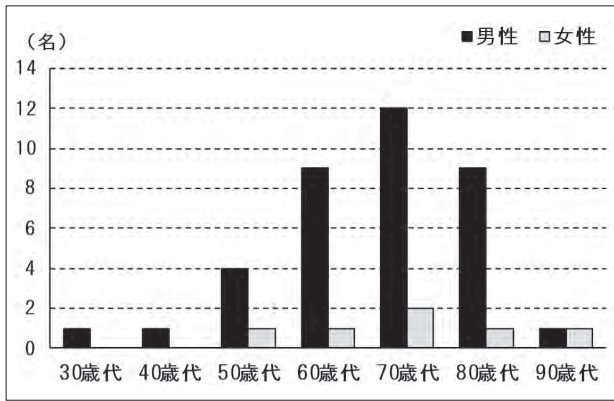


図10 レジオネラ症 年齢階級別発生状況

### 2.1.5 五類感染症(全数把握対象)

五類感染症は、16 感染症の届出があった。

#### i) アメーバ赤痢

アメーバ赤痢は10例の届出があった(図11)。病型は腸管アメーバ症が9例、腸管及び腸管外アメーバ症が1例であった。性別は全て男性で、年齢階級別では40歳代及び60歳代が各4例、50歳代が2例であった。推定感染地域は国内が5例(県内3例、県外1例、不明1例)、不明が5例であった。感染経路は、性的接触が1例、不

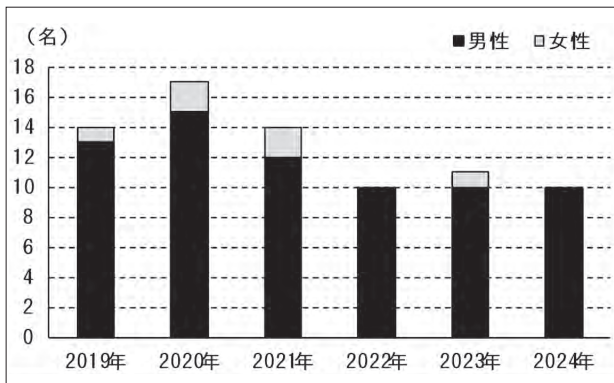


図11 アメーバ赤痢 年次別発生状況

明が9例であった。

#### ii) ウイルス性肝炎(E型肝炎及びA型肝炎を除く。)

ウイルス性肝炎は5例の届出があり、前年(4例)から増加した(図12)。性別は男性が4例、女性が1例であった。年齢階級別では30歳代が2例、20歳代、50歳代及び60歳代が各1例であった。推定感染地域は県内が3例、不明が2例で、感染経路は性的接触が2例、不明が3例であった。

#### iii) カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症

カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症は38例の届出があり、前年(28例)から増加した(図13)。性別は男性が24例、女性が14例で、年齢階級別(図14)では80歳代(12例)、70歳代(11例)、60歳代(7例)の順に多く、60歳以上で89.5%を占めていた。感染原因・経路は、以前からの保菌(17例、うち腸管・消化管(8例)が最多)、手術部位感染(4例)、医療器具関連感染(3例)の順に多かった。検出された菌種は、*Klebsiella aerogenes*が18例、*Enterobacter cloacae*が15例(complex含む)、*Klebsiella pneumoniae*及び*Escherichia coli*が各2例、*Cedecea davisae*が1例であった。

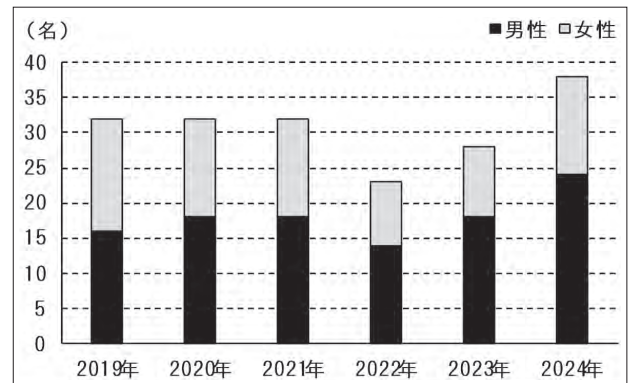


図13 カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 年次別発生状況

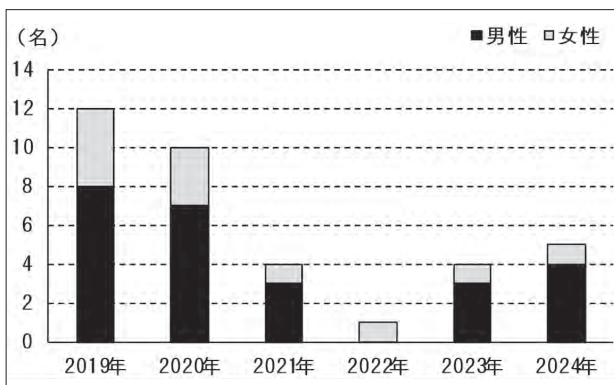


図12 ウイルス性肝炎 年次別発生状況

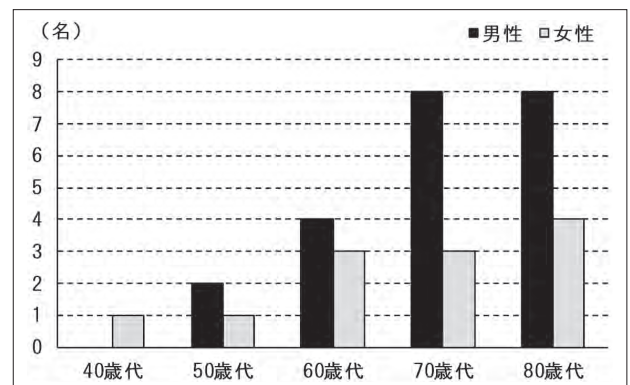


図14 カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 年齢階級別発生状況

iv) 急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)

急性弛緩性麻痺は3例の届出があった。性別は男性が1例、女性が2例で、年齢階級別では幼児が2例、小学生が1例であった。検出病原体はエコーウイルス9型及びライノウイルスA15型が各1例、病原体不明が1例であった。

v) 急性脳炎(ウエストナイル脳炎, 西部ウマ脳炎, ダニ媒介脳炎, 東部ウマ脳炎, 日本脳炎, ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。)

急性脳炎は16例の届出があり、前年(11例)から増加した(図15)。性別は男性が11例、女性が5例で、年齢階級別では10歳未満が8例、10歳代が5例、60歳代が2例、20歳代が1例であった。検出病原体は、インフルエンザウイルスが6例、ヒトヘルペスウイルス6が2例、アデノウイルス、エンテロウイルスA71、新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)、単純ヘルペスウイルス及び肺炎マイコプラズマが各1例、病原体不明が3例であった。

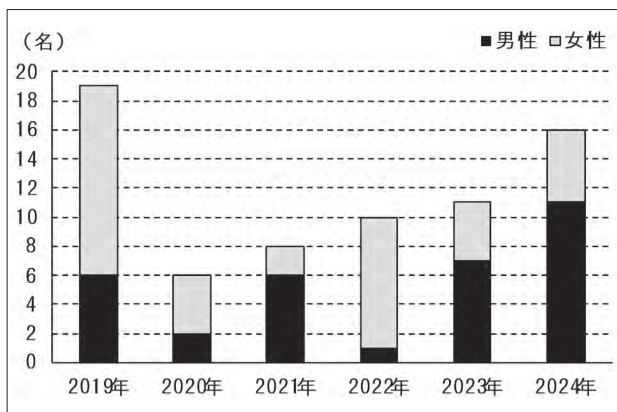


図15 急性脳炎 年次別発生状況

vi) クロイツフェルト・ヤコブ病

クロイツフェルト・ヤコブ病は1例の届出があり、70歳の女性であった。病型は、孤発性プリオン病(古典型)であった。

vii) 劇症型溶血性レンサ球菌感染症

劇症型溶血性レンサ球菌感染症は31例の届出があり、前年(10例)から大きく増加し、感染症法が施行された1999年以降で最多の届出数となった(図16)。2月(8例)、1月及び4月(4例)の順に届出が多くなっており、上半期に届出が多かった(図17)。性別は男性が15例、女性が16例で、年齢階級別では70歳代が8例、50歳代及び80歳代が各6例の順に多く全て30歳代以上の成人であった(図18)。感染経路は、創傷感染が15例、不明が16例であった。

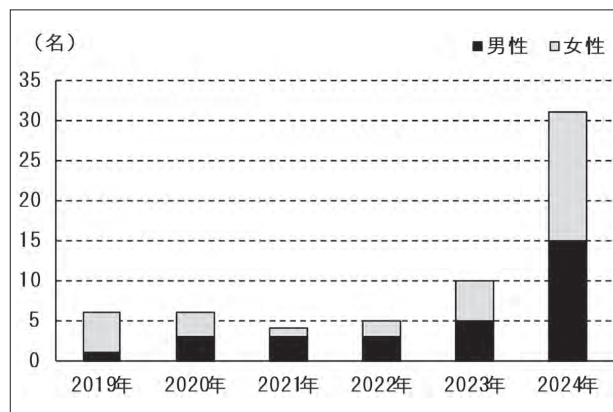


図16 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 年次別発生状況

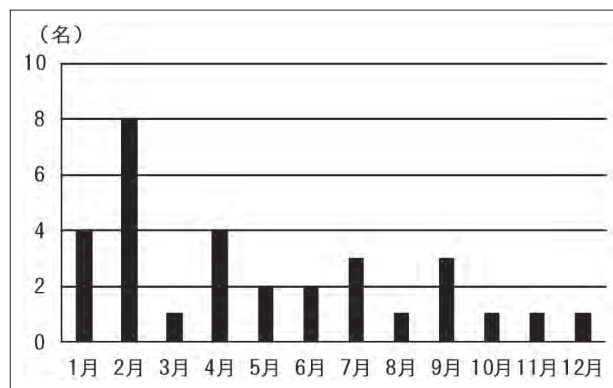


図17 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 月別発生状況

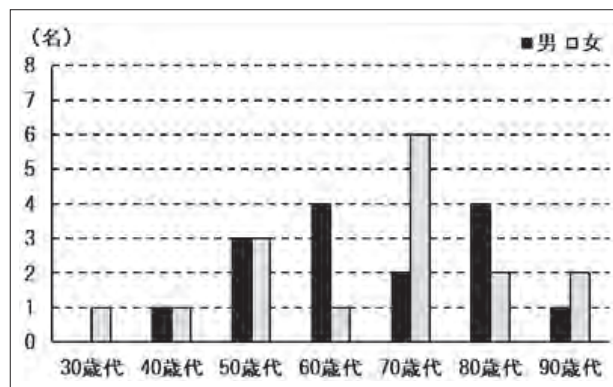


図18 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 年齢階級別発生状況

viii) 後天性免疫不全症候群

後天性免疫不全症候群は8例の届出があり、前年(5例)から増加した(図19)。性別は全て男性で、年齢階級別では30歳代及び40歳代が各3例、20歳代及び50歳代が各1例であった。病型はAIDSが4例、無症候性キャリアが4例であった。推定感染地域は、国内が7例(県内6例、県外1例)、不明が1例であった。感染経路は性的接触が7例(異性間1例、同性間5例、不明1例)、不明が1例であった。後天性免疫不全症候群の届出に係る記載項目の一つであるCD4値は200/mm<sup>3</sup>以下になるとニューモシスチス肺炎等の日和見感染症を発症しやすい

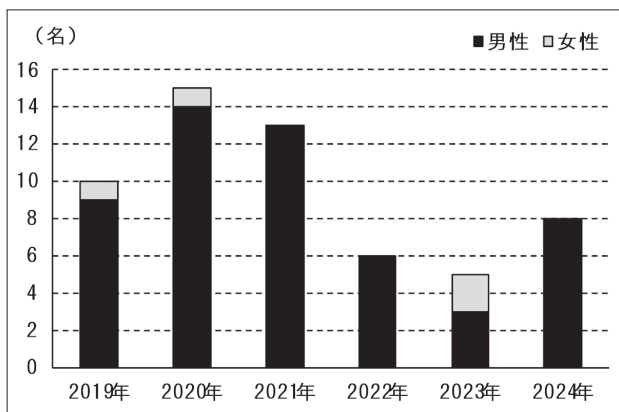


図19 後天性免疫不全症候群 年次別発生状況

くなる<sup>2)</sup>が、2024年は届出時点でCD4値が $200/\text{mm}^3$ 以下であった進行した症例が6例あり、うち4例はCD4値が $50/\text{mm}^3$ 以下の免疫機能が極めて低下した状態で診断され、更にうち2例は病型がAIDSであった。

ix) ジアルジア症

ジアルジア症は1例の届出があり、60歳代の男性であった。推定感染地域は県内で、感染経路は性的接触と推定された。

x) 侵襲性インフルエンザ菌感染症

侵襲性インフルエンザ菌感染症は13例の届出があり、感染症法で全数把握疾患となった2013年以降で最多の届出数となった前年(10例)から更に増加した(図20)。性別は男性が7例、女性が6例で、年齢階級別では70歳代及び80歳代が各4例、10歳未満が2例、40歳代、60歳代及び90歳代が各1例であった。感染経路は飛沫感染が2例、接触感染が1例、不明が10例であった。

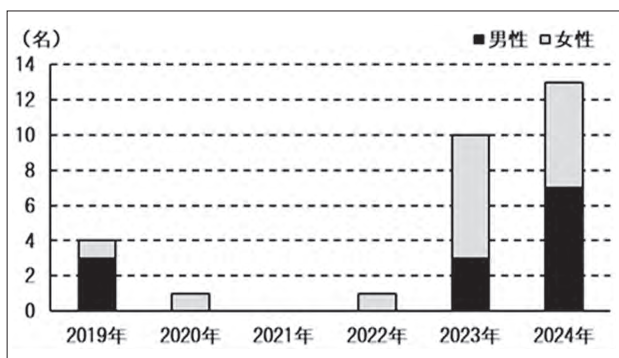


図20 侵襲性インフルエンザ菌感染症 年次別発生状況

xi) 侵襲性髄膜炎菌感染症

侵襲性髄膜炎菌感染症は3例の届出があり、2018年(1例)以来の届出であった。性別は男性が1例、女性が2例で、年齢階級別では、70歳代が2例、50歳代が1例であった。感染経路は全て不明であった。

xii) 侵襲性肺炎球菌感染症

侵襲性肺炎球菌感染症は36例の届出があり、前年(35例)とほぼ同数であった(図21)。性別は男性が22例、女性が14例で、年齢階級別では、10歳未満が9例、70歳代が7例、60歳代及び80歳代が各6例の順に多かった(図22)。ワクチン接種歴別でみると接種歴ありが11例、接種歴なしが9例、不明が16例であった。

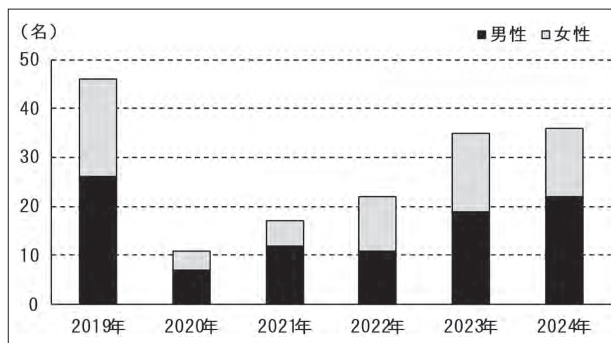


図21 侵襲性肺炎球菌感染症 年次別発生状況

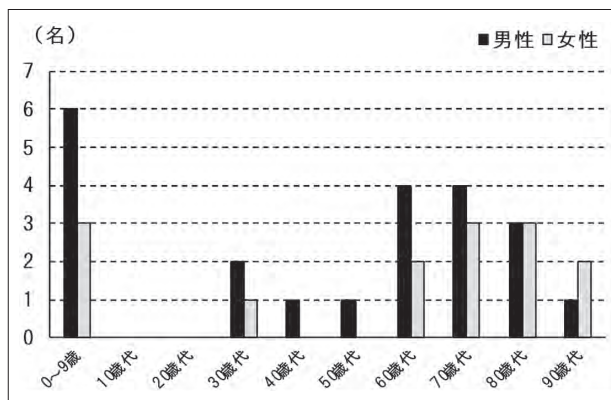


図22 侵襲性肺炎球菌感染症 年齢階級別発生状況

xiii) 水痘(入院例に限る。)

水痘(入院例に限る。)は11例の届出があり、前年(5例)から大きく増加し、感染症法で全数把握疾患となった2014年以降で最多の届出数となった。性別は男性が9例、女性が2例で、年齢階級別では30歳代が3例、10歳代が2例、10歳未満、20歳代、50歳代、60歳代、70歳代及び80歳代が各1例であった。感染原因・経路は、接触感染が2例、免疫力の低下が疑われるものが1例、不明が8例であった。

xiv) 梅毒

梅毒は355例の届出があり、感染症法が施行された1999年以降で最多の届出数となった前年(316例)から更に増加した(図23)。病型は早期顕症梅毒I期が176例、早期顕症梅毒II期が130例、晩期顕症梅毒が2例、無症状病原体保有者が47例であった。性別は男性が243例、女性が112例で、年齢階級別では、男性は40歳代(78例)、30歳代(58例)、20歳代(52例)の順、女性は20歳代(64例)、30歳代(22例)、10歳代(16例)の順に多かった(図

24)。特に女性は10歳代及び20歳代で女性全体の71.4%を占めており、若年女性の届出数が多い状況が継続している(図25)。推定感染地域は国内が331例(県内260例, 県外47例, 不明27例(重複あり)), 国外が1例, 不明が23例であった。感染経路は, 性的接触が339例(異性間308例, 同性間15例, 詳細不明17例(重複あり)), 不明が16例であった。

梅毒の届出に係る記載項目のうち、「性風俗産業の従事歴・利用歴の有無」については、2024年は、男性感染者(243例)のうち130例(53.5%)が直近6か月以内の性風俗産業の利用歴があり、年齢階級別では、40歳代(50例)の利用が最も多く、次いで30歳代(31例), 50歳代(23例)の順で多かった(図26)。また、女性感染者(112例)のうち36例(32.1%)が直近6か月以内の性風俗産業の従事歴があり、年齢階級別では、20歳代(23例, 63.9%)が最も多かった(図27)。2023年と比較すると、男性及び女性の感染者数は増加しているが男性の性風俗利用歴の割合及び女性の性風俗産業従事歴の割合は共に減少している(2023年は男性の性風俗利用歴割合が62.3%, 女性の性風俗の従事割合が44.3%)。

「HIV感染症合併の有無」については、2024年は、4例でHIV感染症合併があり、全て男性で20歳代が3例, 40歳代が1例であった。

「過去の治療歴の有無」については、男性が16例(40歳代が7例, 20歳代及び30歳代が各3例, 50歳代が2例, 60歳代が1例, 1年以内が3例, 1年より前が13例), 女性が6例(20歳代が3例, 30歳代が2例, 40歳代が1例, 1年以内が1例, 1年より前が5例)で治療歴があった。

「妊娠の有無」については、2024年は11例が妊娠しており、妊娠5週から35週で感染が判明していた。年齢階級は10歳代から30歳代であった。このうち、性風俗産業従事歴については、「あり」が3例, 「なし」が3例, 「不明」が5例であった。

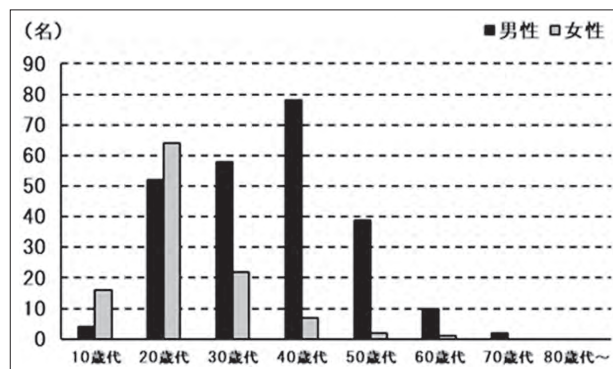


図24 梅毒 年齢階級別発生状況

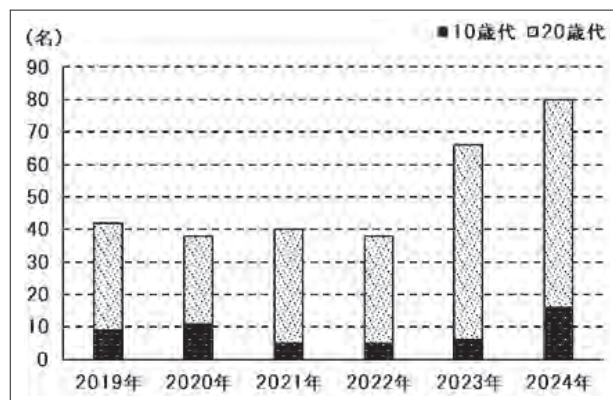


図25 梅毒 年次別(10歳代及び20歳代女性)

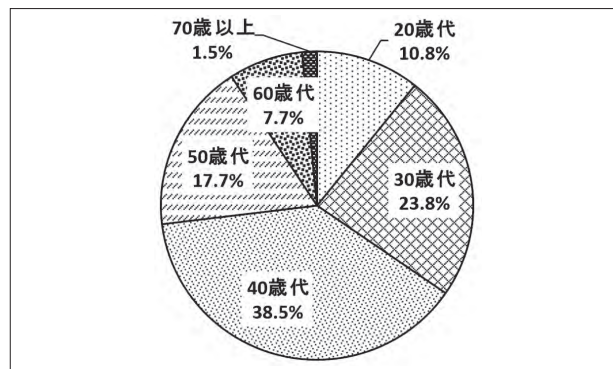


図26 梅毒 性風俗産業利用歴有(2024年, 男性)

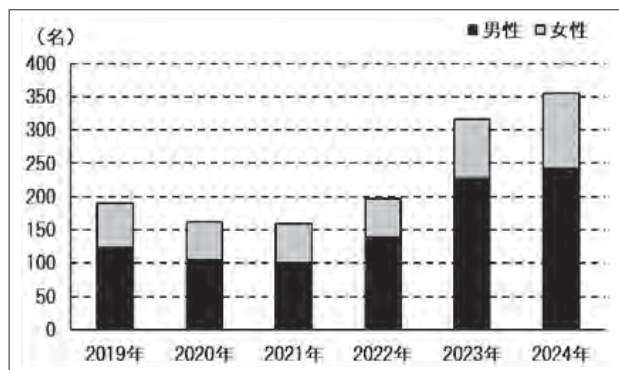


図23 梅毒 年次別発生状況

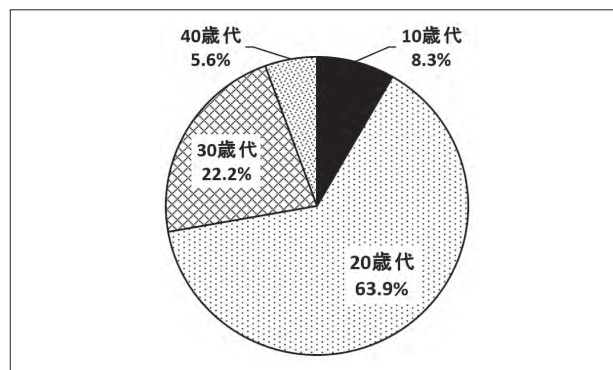


図27 梅毒 性風俗産業従事歴有(2024年, 女性)

xv) 播種性クリプトコックス症

播種性クリプトコックス症は5例の届出があり、前年(2例)から大きく増加した。性別は男性が3例、女性が2例で、年齢階級別では80歳代が3例、70歳代が2例であった。感染原因は全て免疫不全であり、推定感染地域は全て県内であった。

xvi) 百日咳

百日咳は、18例の届出があり、前年(22例)から減少した。2018年(187例)、2019年(428例)と増加傾向であったが、2020年(92例)から減少に転じており、2021年(15例)以降からの少ない発生状況を継続していた。性別は男性が6例、女性が12例で、月別の発生状況では9月に4例、5月及び12月に各3例、6月及び10月に各2例、4月、7月、8月及び11月に各1例であった。年齢階級別では10歳代が7名、10歳未満が4名、20歳代及び50歳代が各2名、30歳代、60歳代及び70歳代が各1名で、10歳代以下が6割以上であった。

2.2 定点把握感染症(五類感染症)の届出状況

2.2.1 小児科・内科定点における週報告の感染症(表4)

小児科・内科定点における週報告の感染症のうち、主な感染症については、以下のとおりである。

i) インフルエンザ(2023/24年シーズン流行のまとめ)(図28)

2023/24年シーズン(2023/9/4～2024/9/1)の岡山県の患者報告数は、37,458名であった。3年ぶりに流行のあった前シーズン(2022/23年シーズン)を大きく上回る流行となり、過去10シーズンで最も多い報告数であった。前シーズンは「インフルエンザ注意報」解除後も患者の発生が続き、第34週(8/21～8/27)には定点あたり1.11人となり、2023/24年シーズンは注意報発令基準である定点あたり1.00人を超えてのシーズン入りとなった。2023年第39週(9/25～10/1)には定点あたり5.50人となり、更に増加傾向で推移したことから、10月5日に「インフルエンザ注意報」を発令した。過去10シ

ズンと比較すると最も早い流行入りであり、その後流行が徐々に拡大し、第47週(11/20～11/26)に定点あたり31.35人となり警報発令基準の30.00人を超え、12月1日に2019年1月以来5シーズンぶりとなる「インフルエンザ警報」を発令した。第49週(12/4～12/10)には定点あたり34.80人となり2023/24年シーズンのピークを迎えた。その後は一旦減少に転じたが、年末年始の時期に下げ止まり、1月中旬ごろから再び増加傾向となった。第6週(2/5～2/11)に定点あたり18.63人となり二つ目のピークを迎え、以降は緩やかに減少し、第12週(3/18～3/24)、第13週(3/25～3/31)と2週連続して定点あたり10.00人を下回ったため、警報から注意報へ切り替えた。2023/24年シーズンは21週間の長期間にわたって定点あたり10.00人以上の流行が続いたが、警報解除後は速やかに減少し、第16週(4/15～4/21)に定点あたり0.55人、第17週(4/22～4/28)に定点あたり0.40人と2週連続して定点あたり1.00人を下回り、インフルエンザの流行は終息した。

シーズンを通して全国とほぼ同様に推移した。

年齢階級別では5～9歳の割合が30.8%と最も多かった。

2023/24年シーズンに岡山県環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスは29株であった。その内訳は、AH3亜型の17株(58.6%)が最も多く、次いでAH1pdm09型が7株(24.1%)、B型(ビクトリア系統)が5株(17.2%)であった。2023/24年シーズンの主流行株はAH3亜型であったが、2月ごろからB型(ビクトリア系統)の流行が拡大した。全国で2023/24年シーズンに検出されたインフルエンザウイルスは8,126株であり、AH3亜型が3,702株、次いでAH1pdm09型が2,207株、B型(ビクトリア系統)が2,136株、B型系統不明が62株、A型亜型不明が18株、C型が1株であった<sup>3)</sup>。

ii) 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)(図29)

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は、定点あ

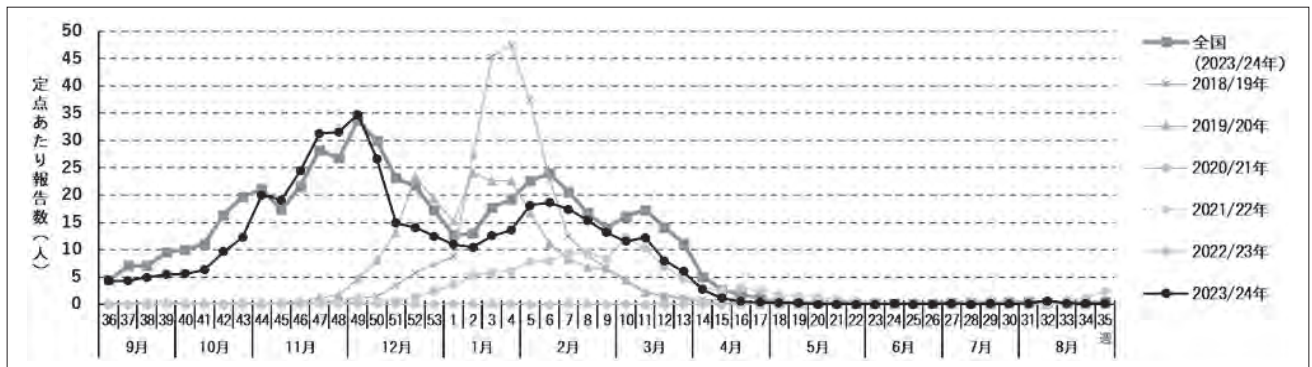


図28 インフルエンザ 発生状況

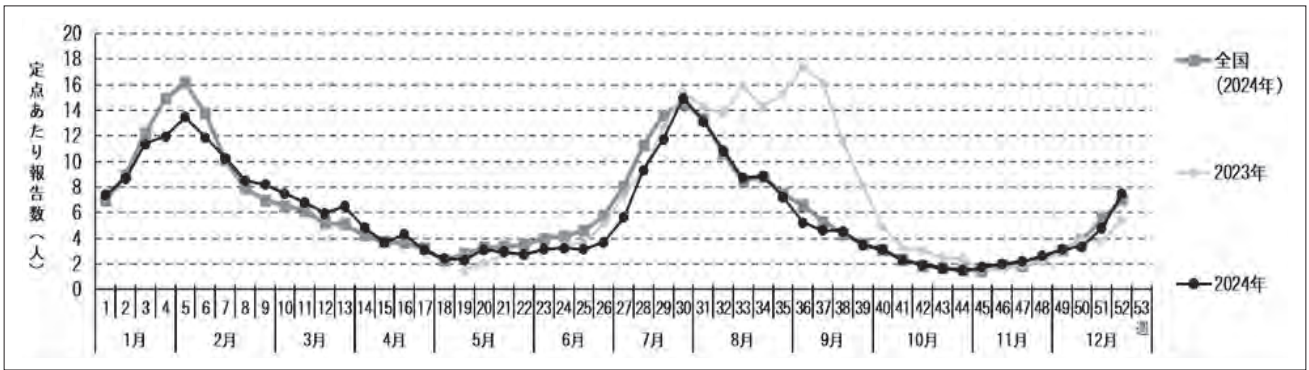


図 29 新型コロナウイルス感染症(COVID-19) 発生状況

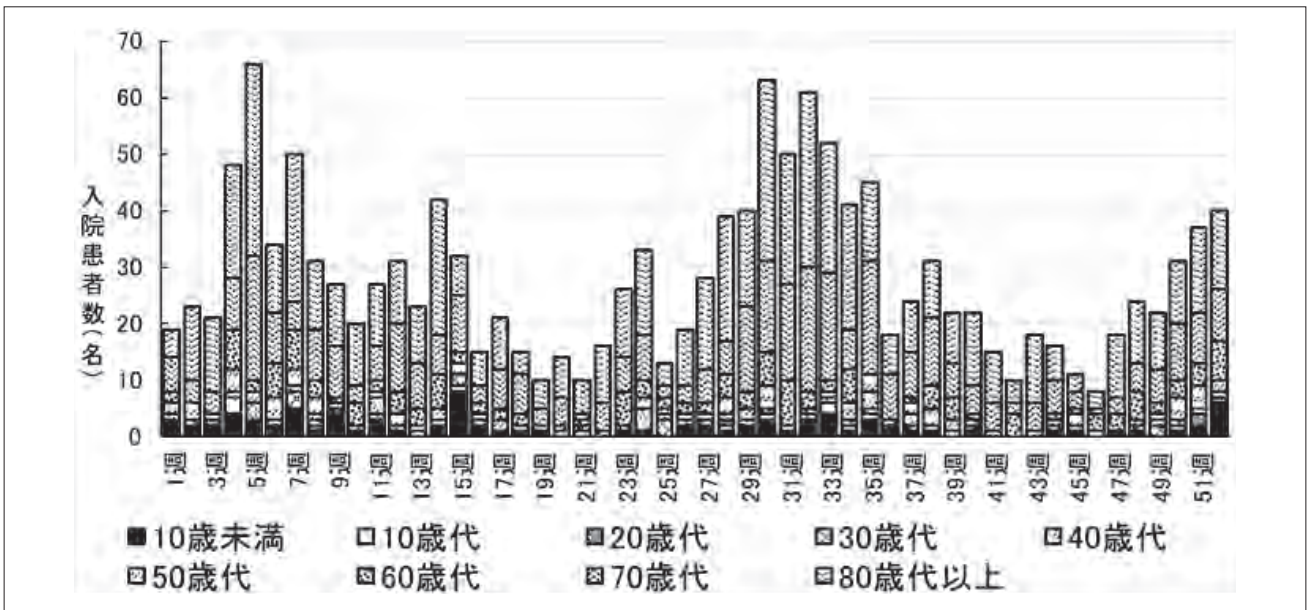


図 30 週単位入院患者発生状況(入院基幹定点サーベイランス：2024年)(岡山県)

たり累積報告数が307.19人であった。年初から定点あたり報告数が増加し、第5週(1/29～2/4)に定点あたり13.45人となり流行のピークを迎えた。その後は増減を繰り返しながら減少傾向で推移し、第19週(5/6～5/12)に定点あたり2.30まで減少した後はしばらく横ばいで推移した。第26週(6/24～6/30)からは増加に転じ、第30週(7/22～7/28)には定点あたり14.98人となり二つ目のピークを迎えた。その後は緩やかに増減を繰り返しながら減少し、第44週(10/28～10/3)には定点あたり1.45人まで減少したが、以降は年末にかけて増加した。年間を通した流行の推移は、全国と同様の傾向であった。

年齢階級別では10歳未満の割合が15.5%と最も多かった。

また、基幹定点医療機関からの新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の入院患者の報告数も第5週(1/29～2/4)と第30週(7/22～7/28)にピークを迎え、年末にか

けて再び増加した(図30)。年齢階級別では80歳代以上が45.2%と最も多かった(図31)。

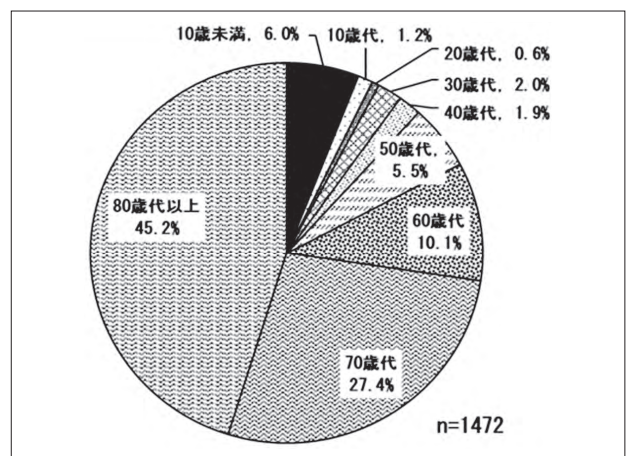


図 31 年齢階級別入院患者発生割合(入院基幹定点サーベイランス：2024年)(岡山県)

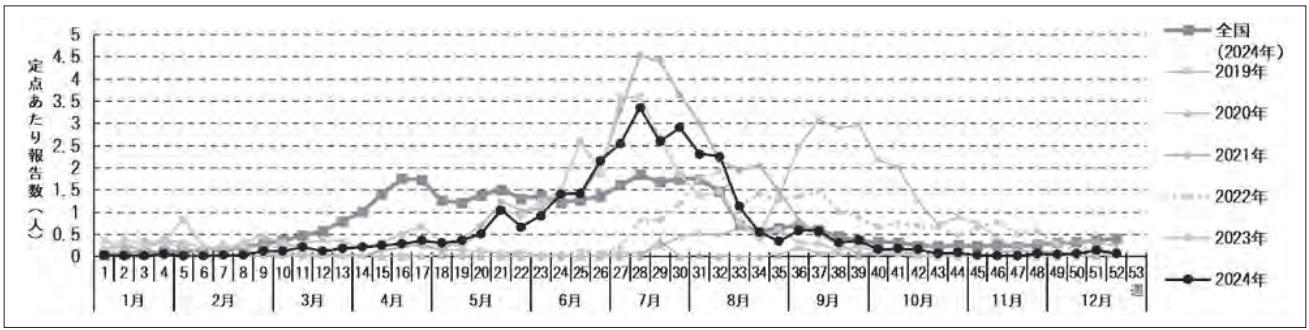


図 32 RSウイルス感染症 発生状況

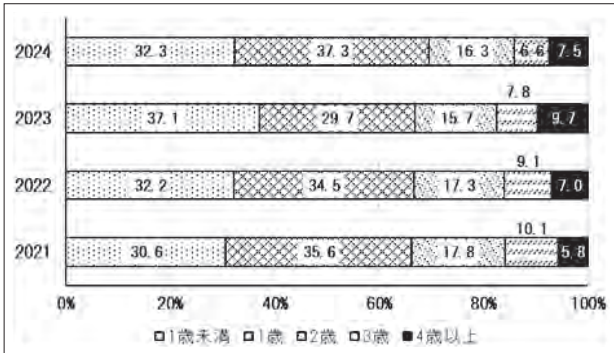


図 33 RSウイルス感染症 年齢階級別割合の推移

iii) RSウイルス感染症(図 32)

RSウイルス感染症は、定点あたり累積報告数が32.09人であり、前年(33.96人)とほぼ同数であった。新型コロナウイルス感染症(COVID-19)流行前は、当該感染症の流行のピークは、例年9月中旬頃(第37週頃)であったが、2021年以降は7月～8月となっており、2024年も5月(第20週)以降増加傾向で推移し、7月(第28週、3.35人)にピークを迎え、8月(第33週)以降急速に収束した。全国では2月(第8週)以降増加し始め、4月(第16週)に定点あたり1.76人となった後は若干の増減をしながら、8月(32週)まで定点あたり1.50人前後の水準で流行が続いた。

年齢階級別では2歳以下の割合が全体の85.9%を占めた(図 33)。

iv) 咽頭結膜熱(図 34)

咽頭結膜熱は、定点あたり累積報告数が26.89人であり、前年(38.98人)から減少した。前年は例年と異なり9月下旬(第39週)頃から年末にかけて例年を大きく上回る流行があったため、2024年の年初が例年より高い水準(第2週、1.28人)であった。その後、5月に定点あたり1.00人を超える小流行があったものの、年初から8月(34週、0.07人)にかけておおむね減少傾向で推移し流行は終息した。年間を通じた流行の推移は、全国と同様の傾向であった。年齢階級別では6歳以下の乳幼児の割合が全体の87.6%を占めた。

v) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(図 35)

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、定点あたり累積報告数が100.93人であり、前年(38.24人)から大きく増加した。前年の年末に引き続き、年初(第3週)から5月初旬(第19週)にかけて例年より高い水準(2.00人～3.00人)で増減を繰り返しながら推移し、6月(第23週)には定点あたり4.06人と1999年以降最も高いピークを迎えた。ピーク後は8月(35週)にかけて減少し、11月(第47週)まで定点あたり1.00人前後の水準を継続したが、以降は年末にかけて定点あたり1.50人を上回る水準で推移した。年間を通じた流行の推移は、全国と同様の傾向であったが全国より低いレベルであった。年齢階級別では、6歳以下の乳幼児の割合が全体の55.4%を占めた。

vi) 感染性胃腸炎(図 36)

感染性胃腸炎は、2023年10月(第42週)以降増加傾向で推移し2月にピークがあったが(第7週、7.98人)、3月以降はほぼ横ばいで推移した。年間を通じた流行の推移は、全国と同様の傾向であった。年齢階級別では、6歳以下の乳幼児の割合が全体の63.6%を占めた。

vii) 水痘(図 37)

水痘は、定点あたり累積報告数が3.80人であり、前年(4.19人)とほぼ同数であった。年間を通して低い水準で推移し、全国より低いレベルであった。年齢階級別では6歳以下の乳幼児の割合が全体の49.8%を占めた。

viii) 手足口病(図 38)

手足口病は、定点あたり累積報告数が152.19人であり、前年(49.24人)から大きく増加し1999年以降最多となった。5月(第19週)から増加傾向で推移し7月(第28週、16.74人)に1999年以降最も高いピークを迎えた。ピーク後は8月(34週)にかけて急激に減少し、以降は小幅に増減を繰り返しながら年末にかけて減少した。全国では7月(第28週)のピークに加え10月(第41週)にもピークが見られた。年齢階級別では1歳以下の割合が全体の34.0%を占めた。全国の手足口病患者から検出されたウイルスはコクサッキーウイルスA6、次いでコクサッ

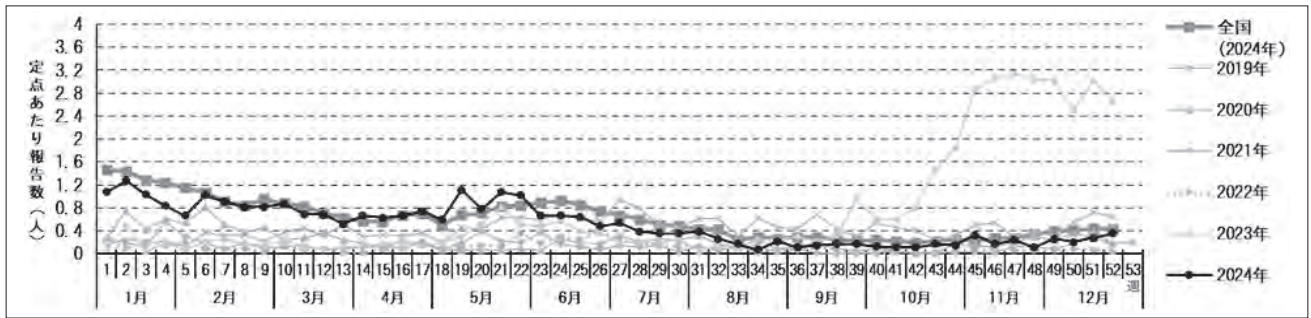


図34 咽頭結膜熱 発生状況

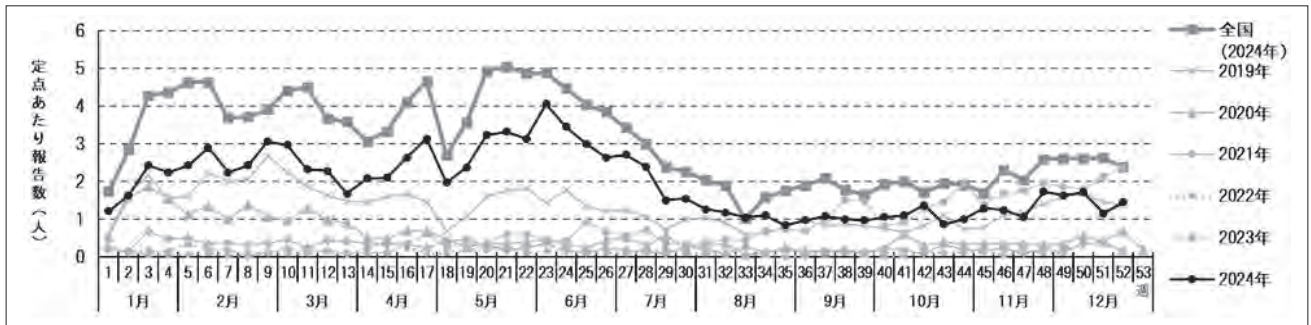


図35 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 発生状況

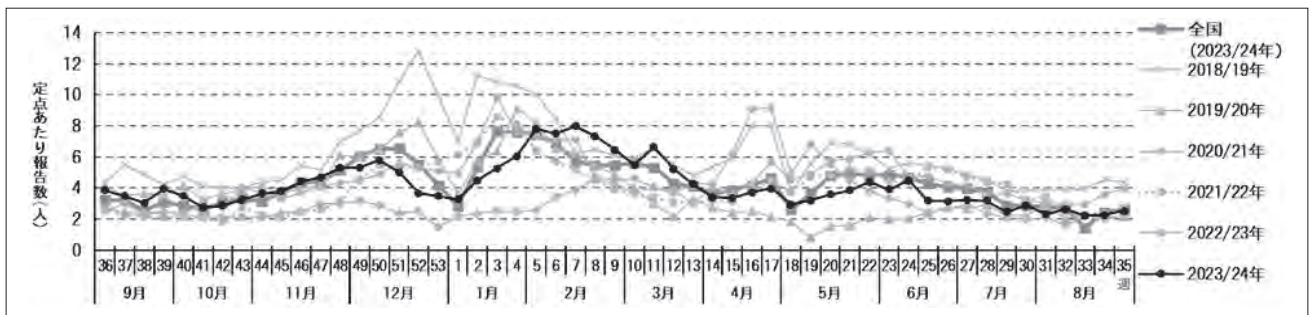


図36 感染性胃腸炎 発生状況

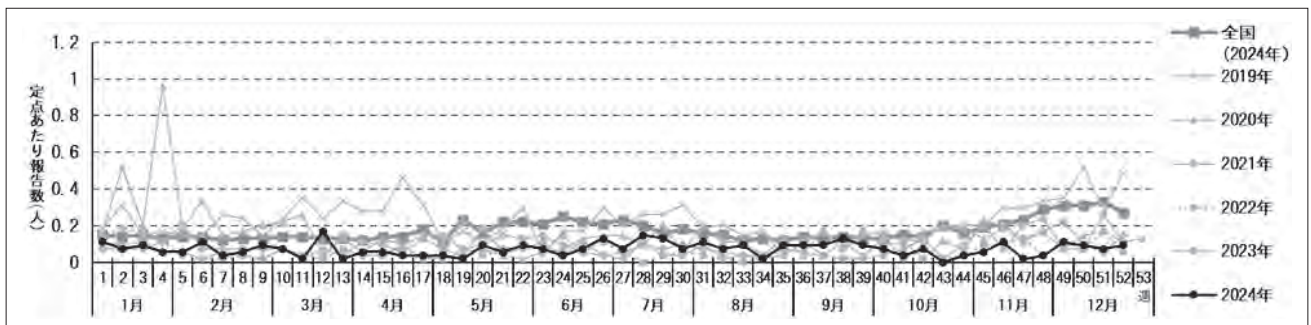


図37 水痘 発生状況

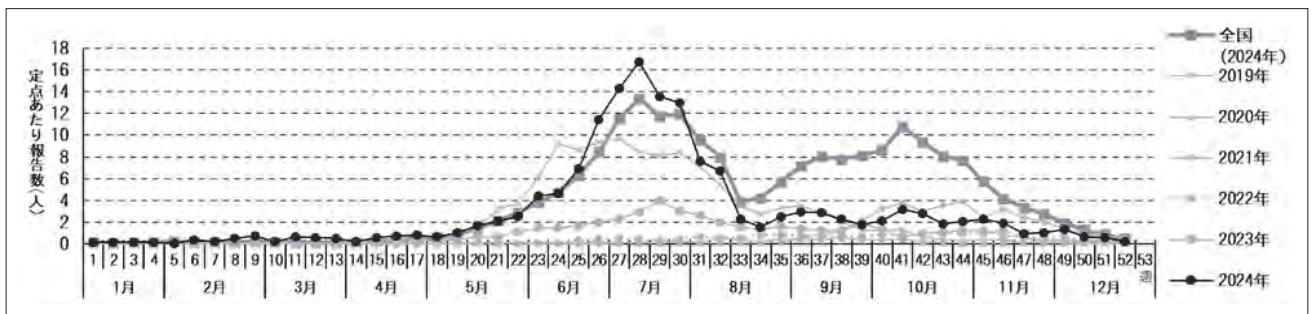


図38 手足口病 発生状況

キーウイルス A16 の順に多く検出された。一つ目のピークではコクサッキーウイルス A6 が最も多く検出され、二つ目のピークではコクサッキーウイルス A16 が最も多く検出された<sup>4)</sup>。

ix) 伝染性紅斑(図 39)

伝染性紅斑は、定点あたり累積報告数が2.07人であり、前年(0.59人)から大きく増加した。流行は、年間を通して低いレベルで推移した。全国では5月(第20週)から漸増していたが、11月上旬(第46週)から下旬(第48週)にかけて急増し、高い水準(第51週, 0.98)のまま年末を迎えた。年齢階級別では6歳以下の乳幼児の割合が全体の79.5%を占めた。

x) 突発性発しん(図 40)

突発性発しんは、定点あたり累積報告数が11.57人であり、前年(11.24人)とほぼ同数であった。年間を通じた流行の推移は、全国と同様の傾向であった。年齢階級別では1歳以下の割合が全体の78.2%を占めた。

xi) ヘルパンギーナ(図 41)

ヘルパンギーナは、定点あたり累積報告数が18.11人であり、前年(39.26人)から減少した。岡山県では7月に流行のピーク(第28週, 2.37人)があった。年間を通じた流行の推移は、全国と同様の傾向であった。年齢階級別では1歳以下(34.0%)が最も多く、5歳以下で全体の85.3%を占めていた。全国のヘルパンギーナの患者から検出されたウイルスは、コクサッキーウイルス A6、次いでコクサッキーウイルス A10 の順に多く検出された<sup>4)</sup>。

xii) 流行性耳下腺炎(図 42)

流行性耳下腺炎は、定点あたり累積報告数が2.43人であり、前年(2.65人)とほぼ同数であった。流行は年間を通して低いレベルで推移し、全国と同様の傾向であった。年齢階級別では6歳以下の乳幼児の割合が全体の63.4%を占めた。

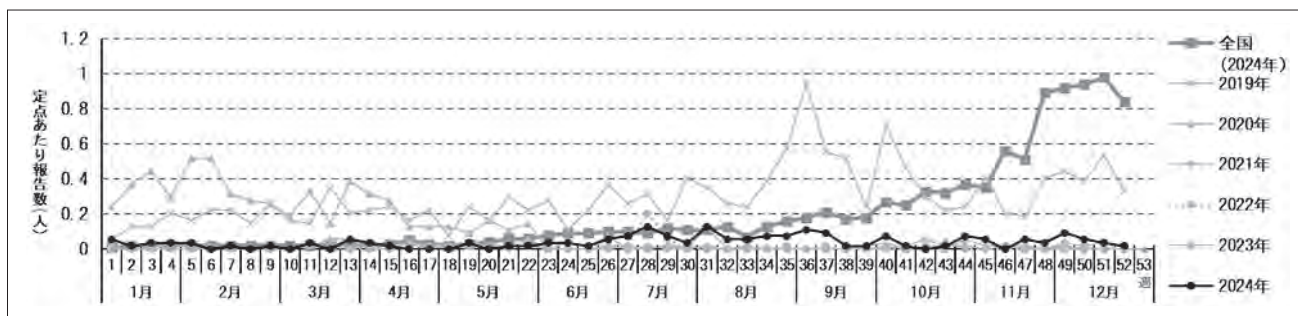


図 39 伝染性紅斑 発生状況

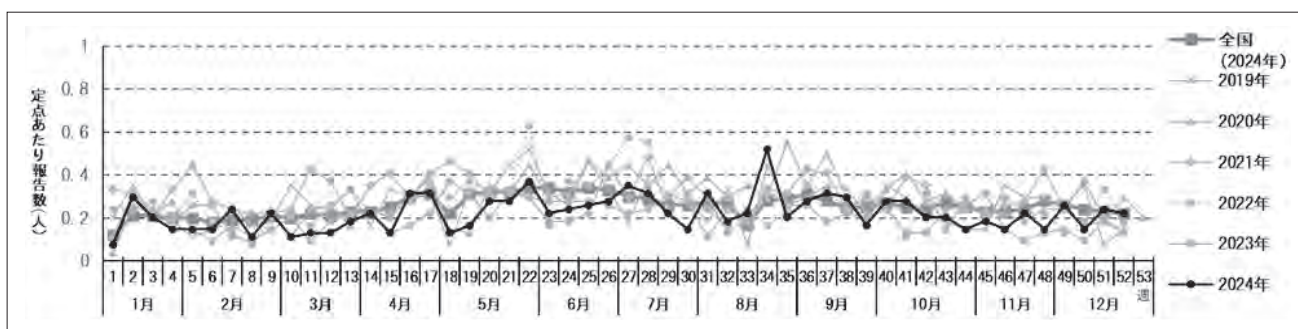


図 40 突発性発しん 発生状況

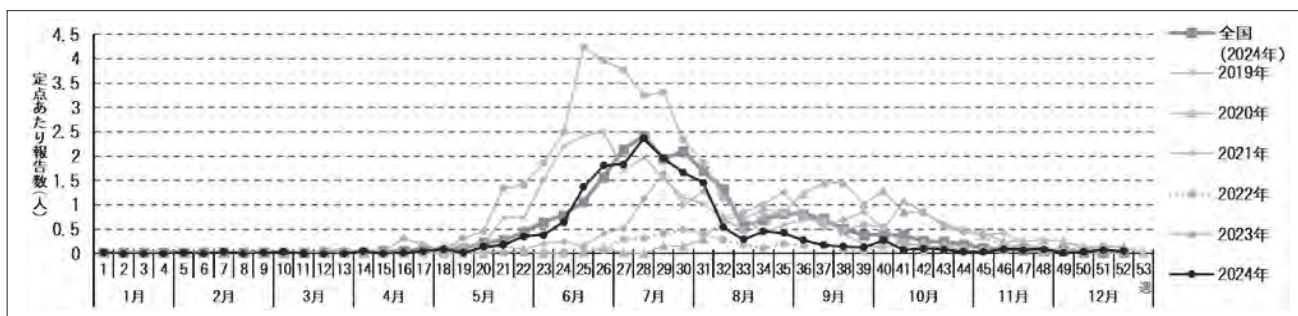


図 41 ヘルパンギーナ 発生状況

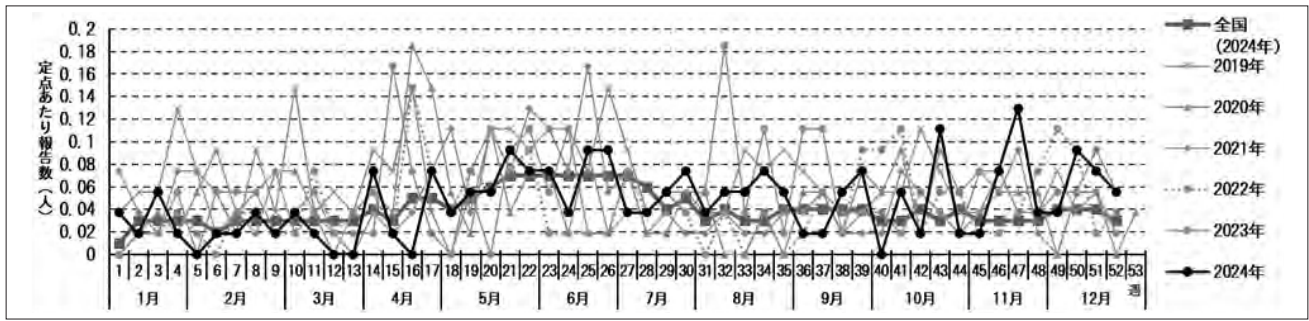


図 42 流行性耳下腺炎 発生状況

### 2.2.2 眼科定点における週報告の感染症(表 4)

#### i) 急性出血性結膜炎

急性出血性結膜炎は、定点あたり累積報告数が0.50人であり、前年(0.83人)から減少した。

#### ii) 流行性角結膜炎(図 43)

流行性角結膜炎は、定点あたり累積報告数が13.50人であり、前年(20.17人)から減少した。岡山県では11月下旬から年末にかけて増加傾向が見られ、全国と同様であった。年齢階級別では、30歳代(29.6%)、10歳未満(19.8%)及び40歳代(14.8%)で多く報告された。

### 2.2.3 基幹定点における週報告の感染症(表 4)

#### i) 細菌性髄膜炎(髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。)

細菌性髄膜炎は、定点あたり累積報告数が1.00人であり、前年(0.80人)から増加した。

#### ii) 無菌性髄膜炎

無菌性髄膜炎は、定点あたり累積報告数が5.00人であり、前年(4.60人)から増加した。

#### iii) マイコプラズマ肺炎(図 44)

マイコプラズマ肺炎は、定点あたり累積報告数が38.00人であり、前年(0.60人)から大きく増加した。岡山県では5月から例年より報告数が多くなり、7月以降は顕著に増加傾向で推移し、10月(第43週、4.40人)から11月(第48週、4.60人)にかけて定点あたり4.5人前後となる過去10年で最も高いピークが見られた。以降は年末にかけて減少した。全国も同様に5月以降増加し、11月(第46週、2.85人)に高いピークを迎え年末にかけて減少した。

#### iv) クラミジア肺炎(オウム病を除く。)

クラミジア肺炎(オウム病を除く。)は、定点あたり累

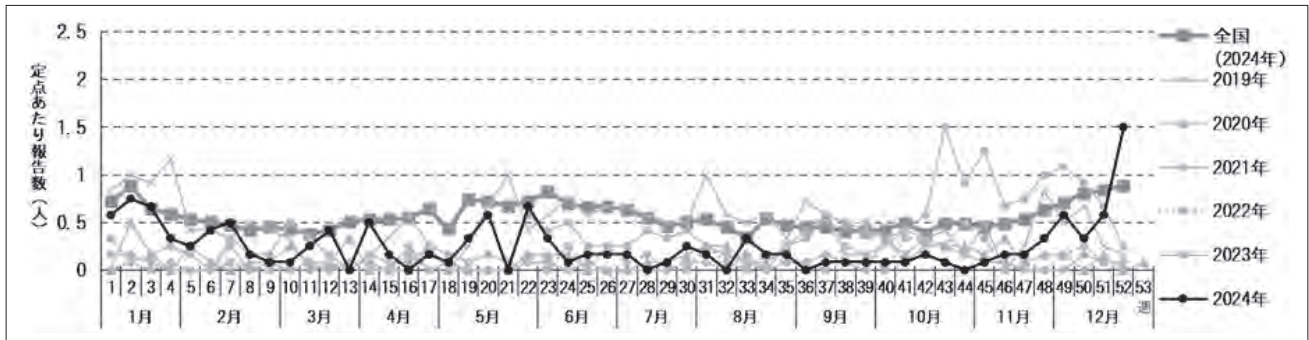


図 43 流行性角結膜炎 発生状況

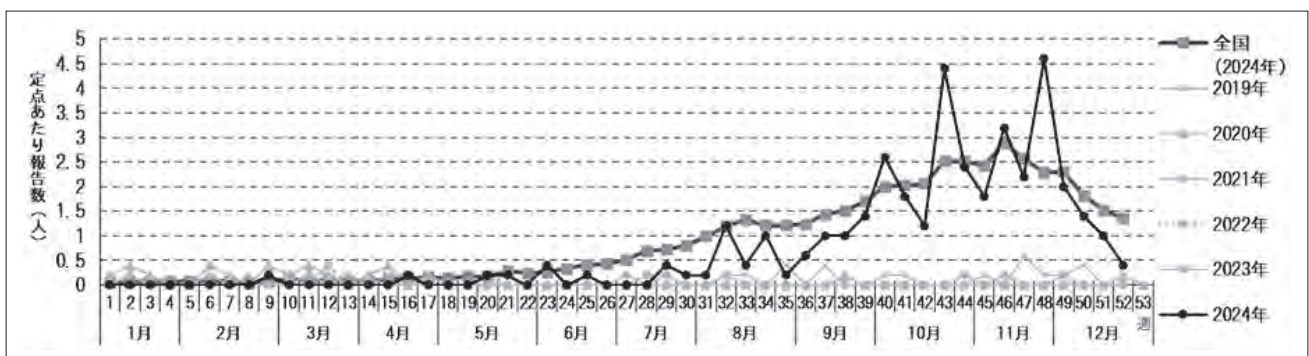


図 44 マイコプラズマ肺炎 発生状況

積報告数が0人であり、前年(0人)と同数であった。

v) 感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるものに限る。)

感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるものに限る。)は、定点あたり累積報告数が0.80人であり、前年(0.60人)から増加した。

## 2.2.4 性感染症定点における月報告の感染症(表6, 7)

### i) 性器クラミジア感染症

性器クラミジア感染症は、定点あたり累積報告数が21.82人であり、前年(21.88人)とほぼ同数で、前年と同様、全国と比較して少ない報告数であった(図45)。性別では男性が8.9%、女性が91.1%で、女性の割合が高かった。年齢階級別では20歳代が最も多かった(図46)。

### ii) 性器ヘルペスウイルス感染症

性器ヘルペスウイルス感染症は、定点あたり累積報告数が4.76人で、前年(4.71人)とほぼ同数で、前年と同様、全国と比較して少ない報告数であった(図47)。性別では男性が7.4%、女性が92.6%で、女性の割合が高かった。年齢階級別では20歳代が最も多かった(図48)。

### iii) 尖圭コンジローマ感染症

尖圭コンジローマ感染症は、定点あたり累積報告数が2.59人で、前年(3.29人)から減少した。前年と同様、全国と比較して少ない報告数であった(図49)。性別では

男性が25.0%、女性が75.0%で、女性の割合が高かった。年齢階級別では、20歳代が最も多かった(図50)。

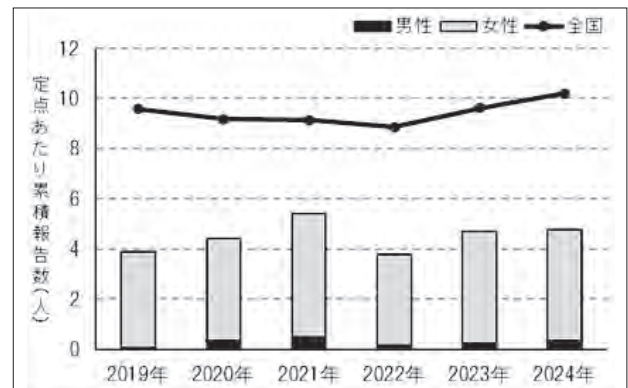


図47 性器ヘルペスウイルス感染症 年次別発生状況

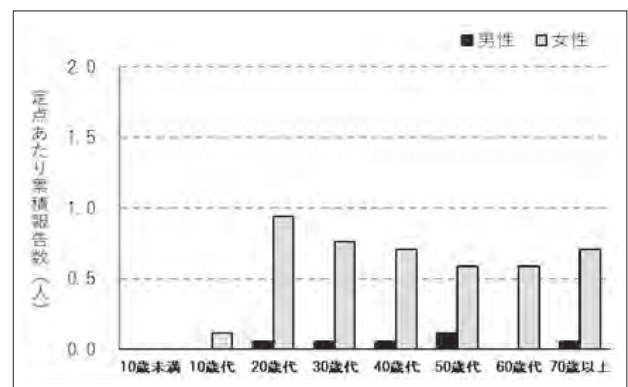


図48 性器ヘルペスウイルス感染症 年齢階級別発生状況

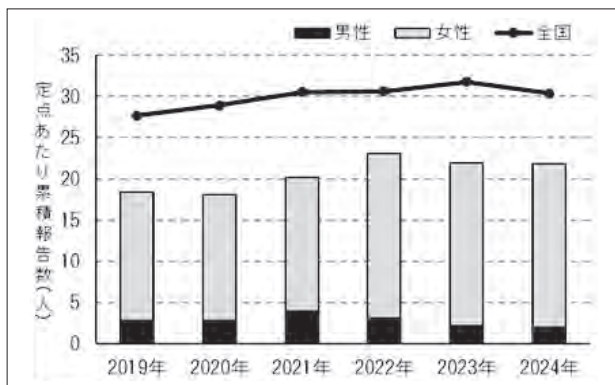


図45 性器クラミジア感染症 年次別発生状況

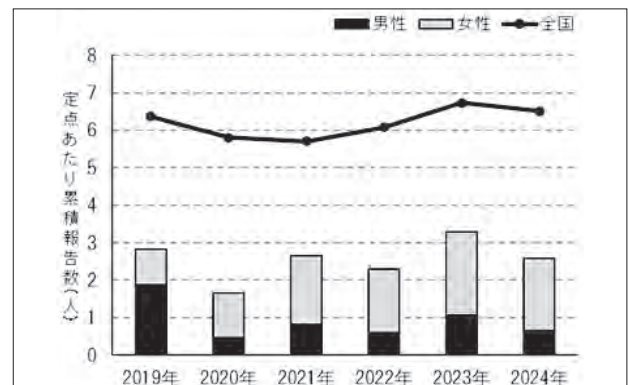


図49 尖圭コンジローマ感染症 年次別発生状況

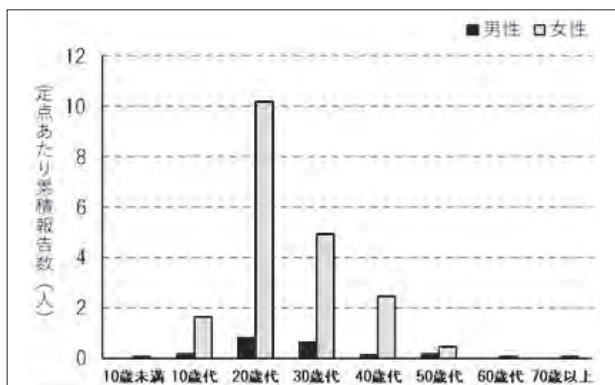


図46 性器クラミジア感染症 年齢階級別発生状況

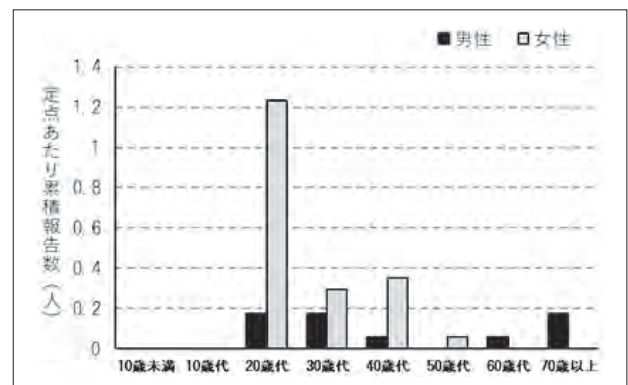


図50 尖圭コンジローマ感染症 年齢階級別発生状況

#### iv) 淋菌感染症

淋菌感染症は、定点あたり累積報告数が6.41人であり、前年(6.18人)とほぼ同数であった。前年と同様、全国と比較して少ない報告数であった(図51)。性別は男性が16.5%、女性が83.5%で、女性の割合が高かった。年齢階級別では、20歳代が最も多かった(図52)。

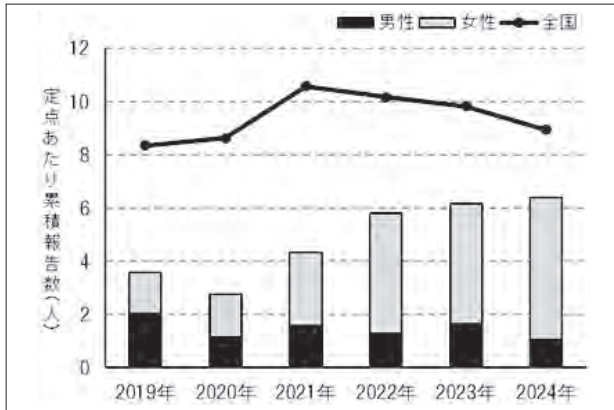


図51 淋菌感染症 年次別発生状況

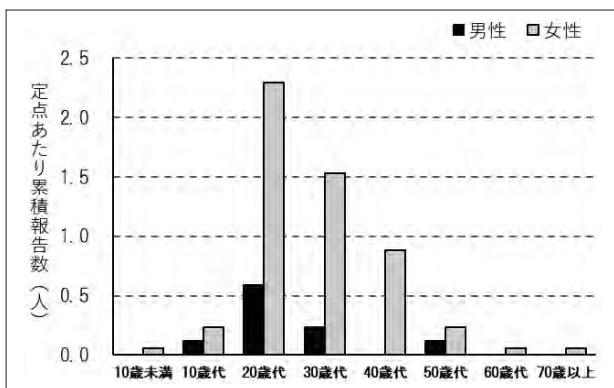


図52 淋菌感染症 年齢階級別発生状況

出数を2年連続して更新した。また、劇症型溶血性レンサ球菌の届け出数は31例であり、感染症法が施行された1999年以降で最多の2018年(14例)を超える届出数となった。更に、梅毒の届出数は355例であり、感染症法が施行された1999年以降で最多の届出数となった前年(315例)から更に増加した。岡山県は人口100万人あたり報告数が、2024年は3位(2023年は全国4位)であり、全国の上位を継続している。

定点把握感染症のうち、インフルエンザは例年より流行入りが早く、21週間の長期間にわたって定点あたり10.00人以上の流行が続き、過去10シーズンで最も多い患者報告数となった。また、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎及び手足口病では感染症法が施行された1999年以降最も高いピークが見られ、マイコプラズマ肺炎でも過去10年で最も高いピークが見られた。RSウイルス感染症では新型コロナウイルス感染症(COVID-19)流行以前と異なる時期での流行が引き続き見られた。

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の流行後、感染防止対策や、外出自粛等の社会活動の変化で流行がある程度抑制されていた感染症については、大きな流行が起きる可能性や通常と異なる時期に流行する可能性があるため、発生情報を注視し早期に流行を探知することが必要であると考えます。

岡山県感染症情報センターでは、今後も引き続き、県内の感染症情報の収集・分析を迅速に行い、全国の感染症発生動向にも注意を払いながら、感染症対策の一助となるよう広く情報発信をしていきたい。

### 2.2.5 基幹定点における月報告の感染症(表6, 8)

#### i) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症は、定点あたり累積報告数が24.40人であり、前年(15.40人)から増加した。年齢階級別では50歳代以上が86.1%を占めていた。

#### ii) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

ペニシリン耐性肺炎球菌感染症は、定点あたり累積報告数が0.40人であり、前年(1.8人)から減少した。

#### iii) 薬剤耐性緑膿菌感染症

薬剤耐性緑膿菌感染症は、定点あたり累積報告数が0.20人であり、前年(0.20人)と同数であった。

## 3 まとめ

全数把握感染症のうち、日本紅斑熱は、21例の届出があり、県内初の届出があった2009年以降の最多の届

表1 感染症法に基づく届出対象感染症(2024年)

1. 全数把握感染症:全ての医師が、全ての患者発生について届出を行う感染症

<p>【 一類感染症 】 直ちに届出</p> <p>(1) エボラ出血熱 (2) クリミア・コンゴ出血熱 (3) 痘そう (4) 南米出血熱 (5) ペスト (6) マールブルグ病 (7) ラッサ熱</p>
<p>【 二類感染症 】 直ちに届出</p> <p>(1) 急性灰白髄炎 (2) 結核 (3) ジフテリア (4) 重症急性呼吸器症候群病原体がベータコロナウイルス属 SARS コロナウイルスであるものに限る。) (5) 中東呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属 MERS コロナウイルスであるものに限る。) (6) 鳥インフルエンザ(H5N1) (7) 鳥インフルエンザ(H7N9)</p>
<p>【 三類感染症 】 直ちに届出</p> <p>(1) コレラ (2) 細菌性赤痢 (3) 腸管出血性大腸菌感染症 (4) 腸チフス (5) パラチフス</p>
<p>【 四類感染症 】 直ちに届出</p> <p>(1) E 型肝炎 (2) ウエストナイル熱(ウエストナイル脳炎含む) (3) A 型肝炎 (4) エキノコックス症 (5) エムボックス (6) 黄熱 (7) オウム病 (8) オムスク出血熱 (9) 回帰熱 (10) キャサナル森林病 (11) Q 熱 (12) 狂犬病 (13) コクシジオイデス症 (14) ジカウイルス感染症 (15) 重症熱性血小板減少症候群病原体がフレボウイルス属 SFTS ウイルスであるものに限る。) (16) 腎症候性出血熱 (17) 西部ウマ脳炎 (18) ダニ媒介脳炎 (19) 炭疽 (20) チクングニア熱 (21) つつが虫病 (22) デング熱 (23) 東部ウマ脳炎 (24) 鳥インフルエンザ(H5N1 及び H7N9 を除く。) (25) ニパウイルス感染症 (26) 日本紅斑熱 (27) 日本脳炎 (28) ハンタウイルス肺症候群 (29) B ウイルス病 (30) 鼻疽 (31) ブルセラ症 (32) ベネズエラウマ脳炎 (33) ヘンドラウイルス感染症 (34) 発しんチフス (35) ボツリヌス症 (36) マラリア (37) 野兔病 (38) ライム病 (39) リッサウイルス感染症 (40) リフトバレー熱 (41) 類鼻疽 (42) レジオネラ症 (43) レプトスピラ症 (44) ロッキー山紅斑熱 注) (5) エムボックスは「サル痘」から令和5年(2023年)5月26日付けで名称変更。</p>
<p>【 五類感染症の一部 】 7日以内に届出(侵襲性髄膜炎菌感染症, 風しん, および麻しんは直ちに届出)</p> <p>(1) アメーバ赤痢 (2) ウイルス性肝炎(E型肝炎及びA型肝炎を除く。) (3) カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 (4) 急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。) (5) 急性脳炎(ウエストナイル脳炎, 西部ウマ脳炎, ダニ媒介脳炎, 東部ウマ脳炎, 日本脳炎, ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。) (6) クリプトスポリジウム症 (7) クロイツフェルト・ヤコブ病 (8) 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 (9) 後天性免疫不全症候群 (10) ジアルジア症 (11) 侵襲性インフルエンザ菌感染症 (12) 侵襲性髄膜炎菌感染症 (13) 侵襲性肺炎球菌感染症 (14) 水痘(入院例に限る。) (15) 先天性風しん症候群 (16) 梅毒 (17) 播種性クリプトコックス症 (18) 破傷風 (19) バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症 (20) バンコマイシン耐性腸球菌感染症 (21) 百日咳 (22) 風しん (23) 麻しん (24) 薬剤耐性アシネトバクター感染症 注) (3) カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症は「カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症」から令和5年(2023年)5月26日付けで名称変更。</p>
<p>【 新型インフルエンザ等感染症 】 直ちに届出</p> <p>(1) 新型インフルエンザ (2) 再興型インフルエンザ (3) 新型コロナウイルス感染症 (4) 再興型コロナウイルス感染症</p>
<p>【 指定感染症 】 直ちに届出</p> <p>該当なし</p>

2. 定点把握感染症(五類感染症):指定した医療機関が、患者の発生について届出を行う感染症

①週単位報告

<p>【 小児科定点 】</p> <p>(1) RSウイルス感染症 (2) 咽頭結膜熱 (3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (4) 感染性胃腸炎 (5) 水痘 (6) 手足口病 (7) 伝染性紅斑 (8) 突発性発しん (9) ヘルパンギーナ (10) 流行性耳下腺炎</p>
<p>【 インフルエンザ/COVID-19 定点 】</p> <p>(1) インフルエンザ(鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。) (2) 新型コロナウイルス感染症(病原体がベータコロナウイルス属のコロナウイルス(令和二年一月に中華人民共和国から世界保健機関に対して、人に伝染する能力を有することが新たに報告されたものに限る。)であるものに限る。)</p>
<p>【 眼科定点 】</p> <p>(1) 急性出血性結膜炎 (2) 流行性角結膜炎</p>
<p>【 基幹定点 】</p> <p>(1) 感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるものに限る。) (2) クラミジア肺炎(オウム病を除く) (3) 細菌性髄膜炎(髄膜炎菌, 肺炎球菌, インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。) (4) マイコプラズマ肺炎 (5) 無菌性髄膜炎</p>

②月単位報告

<p>【 性感染症定点 】</p> <p>(1) 性器クラミジア感染症 (2) 性器ヘルペスウイルス感染症 (3) 尖圭コンジローマ (4) 淋菌感染症</p>
<p>【 基幹定点 】</p> <p>(1) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 (2) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 (3) 薬剤耐性緑膿菌感染症</p>

表2 全数把握感染症 月別患者発生状況

2024年

		総数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
一類感染症	エボラ出血熱	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	クリミアン出血熱	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	南米出血熱	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	マールブルグ病	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
二類感染症	急性灰白髄炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	結核	246	19	18	20	14	20	29	19	21	24	26	10	26
	重症急性呼吸器症候群	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	東呼吸器症候群	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
三類感染症	鳥インフルエンザ(H5N1)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	鳥インフルエンザ(H7N9)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	コレラ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	細菌性赤痢	1	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—
四類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	63	1	2	1	2	5	5	10	15	12	5	3	2
	腸チフス	2	—	—	—	—	—	—	—	2	—	—	—	—
	パラチフス	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	E型肝炎	1	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—
五類感染症	ウエストナイル脳炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	A型肝炎	4	—	—	1	—	2	—	—	1	—	—	—	—
	エキノコックス症	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	エムボックス	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
六類感染症	オウム病	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	オムスク出血熱	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	回帰熱	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	キヤサヌル森林病	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
七類感染症	Q熱	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	狂犬病	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	コウデス感染症	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	重症熱性血小板減少症候群	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—
八類感染症	腎臓出血熱	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	西部ウマ脳炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	炭疽	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	チングニア熱	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
九類感染症	デング熱	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	東部ウマ脳炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	鳥インフルエンザ(H5N1を除く)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	ニバウイルス感染症	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
十類感染症	日本紅斑熱	21	—	—	—	2	4	1	—	1	4	6	3	—
	日本脳炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	ハンタウイルス肺症候群	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	B型肝炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
十一類感染症	鼻疽	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	ペルセラマ脳炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	ヘンドラウイルス感染症	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	発疹性チフス	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
十二類感染症	ボツリヌス症	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	マラリア	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	野兔病	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	ラッサウイルス感染症	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
十三類感染症	リフトバレー熱	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	類鼻疽	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	レプトスピラ症	43	2	1	2	2	4	2	11	5	1	6	4	3
	ロッキン山紅斑熱	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
十四類感染症	アヘンバチ赤痢	10	—	1	—	1	—	2	2	—	1	1	—	2
	ウイルス性肝炎(E・Aを除く)	5	—	—	—	—	1	2	—	1	1	—	—	—
	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	38	6	1	2	1	2	1	3	4	4	3	5	6
	急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)*	3	—	—	—	—	1	—	1	—	—	—	1	—
十五類感染症	急性脳炎	16	1	2	1	—	2	—	—	—	—	1	2	7
	クリプトスポリジウム症	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	31	4	8	1	4	2	2	3	1	3	1	1	1
十六類感染症	後天性免疫不全症候群	8	1	2	—	—	3	1	—	—	—	1	—	—
	ジニア症	1	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	13	1	2	1	—	1	1	1	1	1	2	—	2
	侵襲性髄膜炎菌感染症	3	—	—	1	—	—	—	—	1	—	—	1	—
十七類感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	36	1	1	3	2	5	3	5	—	2	4	5	5
	水痘(入院例)	11	—	2	—	—	2	—	1	—	2	4	—	—
	先天性風しん症候群	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	梅毒	355	36	29	26	25	20	38	45	18	28	33	33	24
十八類感染症	播種性クリプトコックス症	5	1	—	1	—	1	—	—	—	2	—	—	—
	破傷	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
十九類感染症	百日咳	18	—	—	—	1	3	2	1	1	4	2	1	3
	風しん	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	麻疹	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	薬剤耐性アシネトバクター感染症	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

\*ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎日本脳炎、ペネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

表3 全数把握感染症 年齢別患者発生状況

2024年

		総数	0~9歳	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳~
一類感染症	エボラ出血熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	マールブルグ病	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
二類感染症	急性灰白髄炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	結核	246	8	9	42	23	11	15	14	37	51	36
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	中東呼吸器症候群	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
三類感染症	鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	コレラ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	細菌性赤痢	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
	腸管出血性大腸菌感染症	63	10	4	13	7	7	10	6	3	1	2
	腸チフス	2	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-
四類感染症	バングラチフス	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	E型肝炎	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
	ウエストナイル熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	A型肝炎	4	-	1	1	1	-	-	-	-	-	1
	エキノкокクシス	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	エボラ熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	オウム病	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	オムクシス	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	回帰熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	キヤサヌル森林病	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	Q熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	狂犬病	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	コクシジオイデス	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	ジカウイルス感染症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	重症熱性血小板減少症候群	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
	腎症候群	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	西部ウマ脳炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	ダニ媒介脳炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	炭疽	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	チクングニア熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	つが虫病	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	デング熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	東部ウマ脳炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	鳥インフルエンザ(H5N1を除く)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	ニバウイルス感染症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
日本紅斑熱	21	-	1	-	-	-	-	1	2	13	4	
日本脳炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
Bウイルス	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
鼻疽	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ブルセラ病	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
発しんチフス	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ボツリヌス症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
マラリア	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
野兎病	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ライム病	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
リッサウイルス感染症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
リフトバレー熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
類鼻疽	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
レジオネラ症	43	-	-	-	1	1	5	10	14	10	2	
レプトスピラ症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ロッキーマン山紅斑熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
五類感染症	アバチ赤痢	10	-	-	-	-	4	2	4	-	-	-
	ウイルス性肝炎(E・Aを除く)	5	-	-	1	2	-	1	1	-	-	-
	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	38	-	-	-	-	1	3	7	11	12	4
	急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)	3	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-
	急性脳炎*	16	8	5	1	-	-	-	2	-	-	-
	クリプトスポリジウム症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	31	-	-	-	1	2	6	5	8	6	3
	後天性免疫不全症候群	8	-	-	1	3	3	1	-	-	-	-
	ジニア症	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	13	2	-	-	-	1	-	1	4	4	1
	侵襲性髄膜炎菌感染症	3	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-
	侵襲性肺炎球菌感染症	36	9	-	-	3	1	1	6	7	6	3
	水痘(入院例)	11	1	2	1	3	-	1	1	1	1	-
	先天性感風しん症候群	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
六類感染症	梅毒	355	-	20	116	80	85	41	11	2	-	-
	播種性クリプトコックス症	5	-	-	-	-	-	-	-	2	3	-
	破傷風	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	百日咳	18	4	7	2	1	-	2	1	1	-	-
	風しん	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
麻疹	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
薬剤耐性アシネトバクター感染症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

\*ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

表4 定点把握対象感染症の発生状況

定点あたり報告数, 週別(小児科定点, インフルエンザ/COVID-19(小児科・内科)定点, 眼科定点, 基幹定点)

2024年

	インフルエンザ	新型コロナウイルス感染症 (COVID-19)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌 咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	(感染性胃腸炎 (ロタウイルス))
総数	299.55	307.19	32.09	26.89	100.93	196.78	3.80	152.19	2.07	11.57	18.11	2.43	0.50	13.50	1.00	5.00	38.00	0.00	0.80
1週	10.98	7.42	0.04	1.07	1.20	3.28	0.11	0.20	0.06	0.07	0.02	0.04	0.08	0.58	—	—	—	—	—
2週	10.50	8.67	0.02	1.28	1.63	4.48	0.07	0.15	0.02	0.30	—	0.02	—	0.75	—	—	—	—	—
3週	12.58	11.37	0.02	1.04	2.43	5.28	0.09	0.17	0.04	0.20	—	0.06	—	0.67	—	—	—	—	—
4週	13.62	11.96	0.06	0.83	2.24	6.06	0.06	0.15	0.04	0.15	—	0.02	—	0.33	—	—	—	—	0.60
5週	18.17	13.45	0.02	0.67	2.43	7.80	0.06	0.09	0.04	0.15	0.02	—	—	0.25	—	—	—	—	0.20
6週	18.63	11.90	0.02	1.02	2.89	7.52	0.11	0.39	—	0.15	—	0.02	—	0.42	—	—	—	—	—
7週	17.40	10.26	0.04	0.91	2.24	7.98	0.04	0.24	0.02	0.24	0.04	0.02	—	0.50	—	—	—	—	—
8週	15.42	8.52	0.04	0.81	2.43	7.33	0.06	0.52	—	0.11	—	0.04	—	0.17	—	—	—	—	—
9週	13.17	8.18	0.13	0.81	3.06	6.46	0.09	0.74	0.02	0.22	0.02	0.02	—	0.08	—	—	0.20	—	—
10週	11.58	7.49	0.13	0.87	2.96	5.48	0.07	0.22	—	0.11	0.04	0.04	—	0.08	—	0.20	—	—	—
11週	12.21	6.79	0.22	0.69	2.31	6.63	0.02	0.67	0.04	0.13	—	0.02	0.08	0.25	—	—	—	—	—
12週	8.02	5.95	0.13	0.69	2.28	5.22	0.17	0.61	—	0.13	—	—	—	0.42	—	—	—	—	—
13週	6.07	6.51	0.19	0.52	1.67	4.26	0.02	0.54	0.06	0.19	—	—	—	—	—	—	—	—	—
14週	2.75	4.85	0.22	0.67	2.07	3.41	0.06	0.22	0.04	0.22	0.06	0.07	—	0.50	—	—	—	—	—
15週	1.15	3.68	0.26	0.63	2.09	3.35	0.06	0.61	0.02	0.13	—	0.02	—	0.17	—	—	—	—	—
16週	0.55	4.33	0.30	0.67	2.63	3.72	0.04	0.78	—	0.31	0.02	—	—	—	—	0.20	—	—	—
17週	0.40	3.08	0.37	0.74	3.13	3.96	0.04	0.85	—	0.31	0.06	0.07	—	0.17	—	—	—	—	—
18週	0.25	2.43	0.31	0.59	1.96	2.94	0.04	0.67	—	0.13	0.09	0.04	—	0.08	—	—	—	—	—
19週	0.26	2.30	0.37	1.11	2.37	3.20	0.02	1.07	0.04	0.17	0.02	0.06	—	0.33	—	—	—	—	—
20週	0.07	3.12	0.52	0.78	3.22	3.59	0.09	1.70	—	0.28	0.15	0.06	—	0.58	—	—	0.20	—	—
21週	0.05	2.94	1.06	1.07	3.31	3.85	0.06	2.11	0.02	0.28	0.19	0.09	—	—	—	—	0.20	—	—
22週	0.04	2.73	0.67	1.02	3.13	4.39	0.09	2.50	0.02	0.37	0.35	0.07	—	0.67	—	0.20	—	—	—
23週	0.02	3.14	0.93	0.67	4.06	3.89	0.07	4.44	0.04	0.22	0.39	0.07	—	0.33	0.20	0.20	0.40	—	—
24週	0.11	3.25	1.41	0.67	3.44	4.48	0.04	4.69	0.04	0.24	0.65	0.04	—	0.08	—	—	—	—	—
25週	0.08	3.15	1.43	0.65	3.00	3.17	0.07	6.94	0.02	0.26	1.37	0.09	—	0.17	—	0.20	0.20	—	—
26週	0.08	3.70	2.17	0.48	2.63	3.15	0.13	11.43	0.06	0.28	1.81	0.09	—	0.17	—	—	—	—	—
27週	0.18	5.62	2.56	0.54	2.70	3.22	0.07	14.28	0.07	0.35	1.83	0.04	—	0.17	—	—	—	—	—
28週	0.05	9.31	3.35	0.39	2.39	3.19	0.15	16.74	0.13	0.31	2.37	0.04	—	—	—	—	—	—	—
29週	0.11	11.74	2.59	0.35	1.50	2.44	0.13	13.57	0.07	0.22	1.96	0.06	—	0.08	—	0.20	0.40	—	—
30週	0.12	14.98	2.91	0.35	1.54	2.89	0.07	12.94	0.04	0.15	1.67	0.07	—	0.25	—	—	0.20	—	—
31週	0.20	13.13	2.31	0.39	1.26	2.30	0.11	7.59	0.13	0.31	1.46	0.04	—	0.17	—	0.40	0.20	—	—
32週	0.63	10.86	2.26	0.26	1.17	2.63	0.07	6.70	0.06	0.19	0.54	0.06	—	—	—	0.40	1.20	—	—
33週	0.20	8.69	1.13	0.17	1.04	2.20	0.09	2.31	0.06	0.22	0.30	0.06	—	0.33	—	0.20	0.40	—	—
34週	0.14	8.88	0.56	0.07	1.09	2.26	0.02	1.54	0.07	0.52	0.46	0.07	—	0.17	—	—	1.00	—	—
35週	0.10	7.19	0.35	0.22	0.83	2.52	0.09	2.50	0.07	0.20	0.43	0.06	—	0.17	0.20	—	0.20	—	—
36週	0.18	5.24	0.59	0.11	0.96	2.37	0.09	3.00	0.11	0.28	0.28	0.02	—	—	—	—	0.60	—	—
37週	0.10	4.61	0.57	0.15	1.07	2.61	0.09	2.89	0.09	0.31	0.19	0.02	—	0.08	0.20	—	1.00	—	—
38週	0.29	4.56	0.31	0.17	1.00	1.61	0.13	2.33	0.02	0.30	0.15	0.06	0.08	0.08	—	0.20	1.00	—	—
39週	0.07	3.46	0.37	0.17	0.96	2.06	0.09	1.81	0.02	0.17	0.13	0.07	—	0.08	—	—	1.40	—	—
40週	0.31	3.15	0.17	0.13	1.06	2.46	0.07	2.15	0.07	0.28	0.28	—	0.08	0.08	—	—	2.60	—	—
41週	0.39	2.27	0.19	0.11	1.09	2.81	0.04	3.17	0.02	0.28	0.07	0.06	—	0.08	—	0.40	1.80	—	—
42週	0.63	1.95	0.17	0.11	1.37	2.07	0.07	2.81	—	0.20	0.11	0.02	—	0.17	—	0.40	1.20	—	—
43週	0.52	1.63	0.07	0.17	0.85	1.98	—	1.87	0.02	0.20	0.09	0.11	—	0.08	—	0.60	4.40	—	—
44週	0.52	1.45	0.09	0.15	1.00	2.54	0.04	2.06	0.07	0.15	0.04	0.02	—	—	—	0.20	2.40	—	—
45週	0.63	1.74	0.04	0.33	1.28	2.65	0.06	2.28	0.06	0.19	0.04	0.02	0.08	0.08	—	0.40	1.80	—	—
46週	1.37	2.00	0.02	0.17	1.24	3.13	0.11	1.96	—	0.15	0.09	0.07	—	0.17	—	0.40	3.20	—	—
47週	1.73	2.20	0.02	0.24	1.06	2.46	0.02	0.96	0.06	0.22	0.07	0.13	—	0.17	—	0.20	2.20	—	—
48週	3.92	2.62	0.07	0.11	1.72	3.43	0.04	1.09	0.04	0.15	0.09	0.04	—	0.33	—	—	4.60	—	—
49週	6.25	3.15	0.06	0.26	1.63	3.41	0.11	1.35	0.09	0.26	0.02	0.04	—	0.58	0.20	—	2.00	—	—
50週	11.02	3.33	0.07	0.20	1.70	4.06	0.09	0.72	0.06	0.15	0.04	0.09	—	0.33	—	0.20	1.40	—	—
51週	31.95	4.77	0.15	0.28	1.15	4.11	0.07	0.59	0.04	0.24	0.07	0.07	0.08	0.58	—	—	1.00	—	—
52週	63.76	7.46	0.07	0.35	1.44	4.48	0.09	0.24	0.02	0.22	0.06	0.06	—	1.50	0.20	—	0.40	—	—

表5 週報告 定点把握感染症(小児科定点, インフルエンザ/COVID-19(小児科・内科)定点, 眼科定点, 基幹定点)年齢階級別患者報告数

疾患名	年齢区分 小児科 眼科 基	インフルエンザ COVID-19	合計	～6か月	～12か月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上		
			合計	～6か月	～12か月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20歳以上								
			合計	～6か月	～12か月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上			
			0歳	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上							
インフルエンザ	イ		25,162	109	215	694	801	850	1,104	1,224	1,561	1,445	1,625	1,536	5,359	1,612	1,309	1,505	1,591	1,130	656	448	388		
新型コロナウイルス感染症 (COVID-19)	イ		25,804	250	410	583	395	347	309	334	326	342	355	339	1,987	1,246	2,453	2,440	2,816	3,003	2,504	2,620	2,745		
RSV感染	小		1,733	280	280	646	282	115	71	35	8	4	2	4	5	-	1								
咽頭結膜炎	小		1,452	20	82	333	180	210	192	151	104	62	37	23	37	7	14								
A群β溶血性レンサ球菌咽頭炎	小		5,450	6	22	206	286	505	645	713	637	568	544	351	729	47	191								
感染性胃腸炎	小		10,626	120	650	1,495	1,028	907	868	885	801	600	572	437	1,209	176	878								
水痘	小		205	6	5	20	13	18	15	14	11	21	15	10	48	3	6								
手足口病	小		8,218	109	506	2,176	1,511	1,249	1,049	765	306	183	117	73	112	14	48								
伝染性紅斑	小		112	-	3	11	9	17	17	19	13	6	6	4	6	-	1								
突発性発しん	小		625	16	119	354	95	23	9	5	3	-	1	-	-	-	-								
ヘルパンギーナ	小		978	10	88	235	168	136	105	92	45	31	21	14	26	1	6								
流行性耳下腺炎	小		131	-	1	5	10	6	19	24	18	14	10	9	12	2	1								
急性出血性結膜炎	眼		6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	1	-	2	1	-			
流行性角結膜炎	眼		162	-	-	2	2	4	2	7	2	4	4	5	10	3	18	48	24	13	10	4			
細菌性髄膜炎	基		5	2	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	1	-						
無菌性髄膜炎	基		25	11	-	-	-	2	2	-	2	-	1	-	1	-	1	5							
マイコプラズマ肺炎	基		190	3	28	74	53	9	4	2	5	4	3	2	1	-	-	2	-						
クラミジア肺炎	基		0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-						
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	基		4	-	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-						

表6 月報告 定点把握感染症(性感症定点, 基幹定点) 月別, 定点あたり報告数

疾患名		総計	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
性感症定点	性器クラミジア 感染症	計	21.82	1.88	2.18	1.59	1.82	1.41	1.47	2.47	2.06	1.53	2.24	1.65	1.53
		男性	1.94	0.18	0.12	0.29	0.29	0.12	0.06	0.18	0.12	0.12	0.18	0.12	0.18
		女性	19.88	1.71	2.06	1.29	1.53	1.29	1.41	2.29	1.94	1.41	2.06	1.53	1.35
	性器ヘルペス ウイルス感染症	計	4.76	0.47	0.24	0.24	0.76	0.41	0.35	0.35	0.76	0.12	0.35	0.47	0.24
		男性	0.35	-	-	0.06	0.06	-	-	0.06	0.06	-	0.06	-	0.06
		女性	4.41	0.47	0.24	0.18	0.71	0.41	0.35	0.29	0.71	0.12	0.29	0.47	0.18
	尖圭 コンジローマ	計	2.59	0.29	0.24	0.18	0.29	0.41	0.24	0.24	0.06	0.12	0.12	0.24	0.18
		男性	0.65	-	0.06	-	0.12	0.18	-	0.12	-	-	-	0.06	0.12
		女性	1.94	0.29	0.18	0.18	0.18	0.24	0.24	0.12	0.06	0.12	0.12	0.18	0.06
	淋菌感染症	計	6.41	0.12	0.94	0.71	0.47	0.47	0.35	0.65	0.47	0.59	0.65	0.53	0.47
		男性	1.06	0.06	0.06	0.18	0.12	0.06	0.06	0.06	0.12	0.12	0.12	0.06	0.06
		女性	5.35	0.06	0.88	0.53	0.35	0.41	0.29	0.59	0.35	0.47	0.53	0.47	0.41
基幹定点	メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌 感染症	計	24.40	1.40	2.00	3.00	1.20	2.20	2.60	1.60	2.00	1.60	2.40	1.20	3.20
		男性	17.40	0.60	1.60	2.80	1.00	1.20	1.60	1.40	1.40	1.60	1.40	1.00	1.80
		女性	7.00	0.80	0.40	0.20	0.20	1.00	1.00	0.20	0.60	-	1.00	0.20	1.40
	ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症	計	0.40	0.40	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		男性	0.40	0.40	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		女性	0.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	薬剤耐性 緑膿菌感染症	計	0.20	-	-	-	-	-	0.20	-	-	-	-	-	-
		男性	0.20	-	-	-	-	-	0.20	-	-	-	-	-	-
		女性	0.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

表7 月報告 定点把握感染症(性感染症定点)年齢階級別患者報告数

2024年

疾患名	0歳	1歳～	5歳～	10歳～	15歳～	20歳～	25歳～	30歳～	35歳～	40歳～	45歳～	50歳～	55歳～	60歳～	65歳～	70歳～	総計	
性器クラミジア 感染症	計	—	1	—	—	31	109	78	53	42	31	13	8	3	1	—	1	371
	男性	—	—	—	—	3	7	7	5	6	1	1	2	1	—	—	—	33
	女性	—	1	—	—	28	102	71	48	36	30	12	6	2	1	—	1	338
性器ヘルペス ウイルス感染症	計	—	—	—	—	2	7	10	9	5	8	5	5	7	6	4	13	81
	男性	—	—	—	—	—	1	—	1	—	—	1	—	2	—	—	1	6
	女性	—	—	—	—	2	6	10	8	5	8	4	5	5	6	4	12	75
尖圭コンジローマ	計	—	—	—	—	—	19	5	4	4	3	4	1	—	1	—	3	44
	男性	—	—	—	—	—	3	—	1	2	—	1	—	—	1	—	3	11
	女性	—	—	—	—	—	16	5	3	2	3	3	1	—	—	—	—	33
淋菌感染症	計	—	1	—	—	6	33	16	15	15	9	6	4	2	1	—	1	109
	男性	—	—	—	—	2	6	4	2	2	—	—	2	—	—	—	—	18
	女性	—	1	—	—	4	27	12	13	13	9	6	2	2	1	—	1	91

表8 月報告 定点把握感染症(基幹定点)年齢階級別患者報告数

2024年

疾患名	0歳	1歳～	5歳～	10歳～	15歳～	20歳～	25歳～	30歳～	35歳～	40歳～	45歳～	50歳～	55歳～	60歳～	65歳～	70歳～	総計
メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症	3	4	—	—	2	1	1	1	2	1	2	7	7	5	9	77	122
ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1	2
薬剤耐性緑膿菌感染症	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1

## 文 献

- 厚生労働省：結核登録者情報調査年報集計結果について  
[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000175095\\_00016.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000175095_00016.html) (2026.1.20 アクセス)
- 国立感染症研究所：AIDS(後天性免疫不全症候群)とは  
<https://id-info.jihs.go.jp/infectious-diseases/hiv-infection-and-aids/detail/index.html> (2026.1.20 アクセス)
- 国立感染症研究所：インフルエンザウイルス分離・検出速報  
<https://id-info.jihs.go.jp/surveillance/iasr/graphdata/020/index.html> (2026.1.20 アクセス)
- 国立感染症研究所：病原微生物検出情報  
<https://id-info.jihs.go.jp/surveillance/iasr/graph/virus/index.html> (2025.12.26 アクセス)